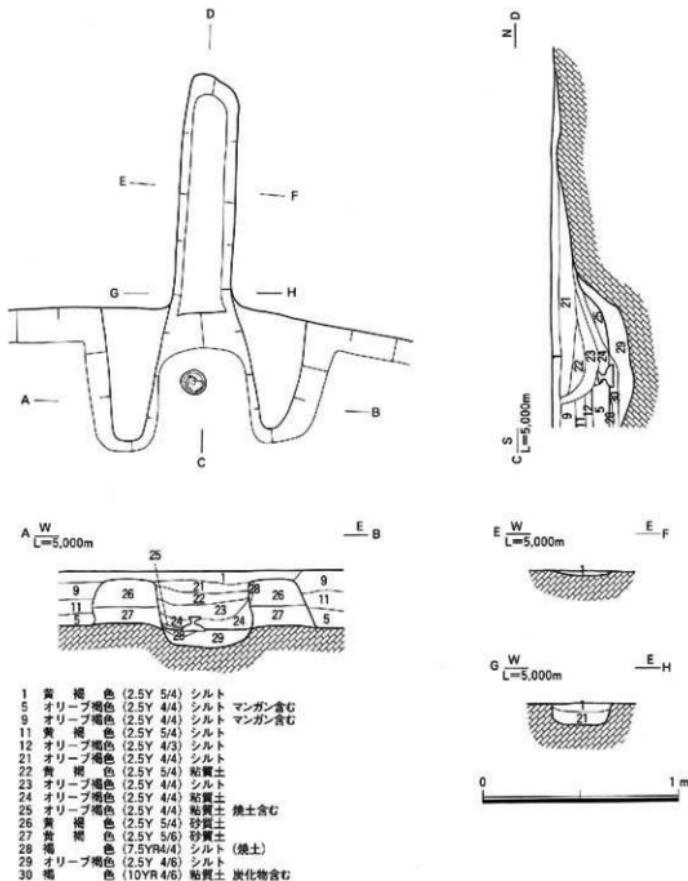
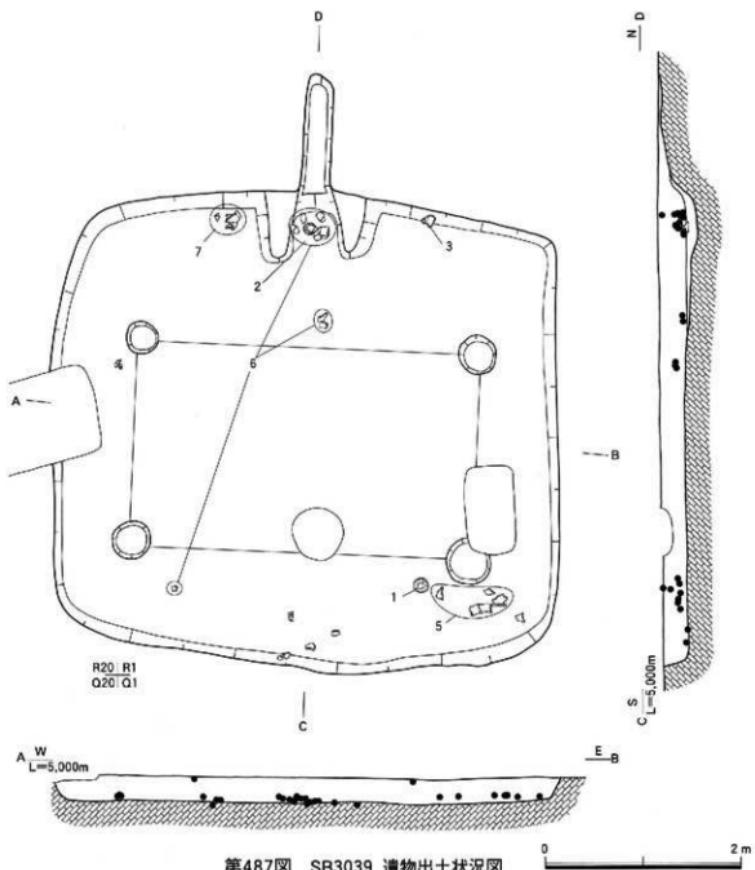


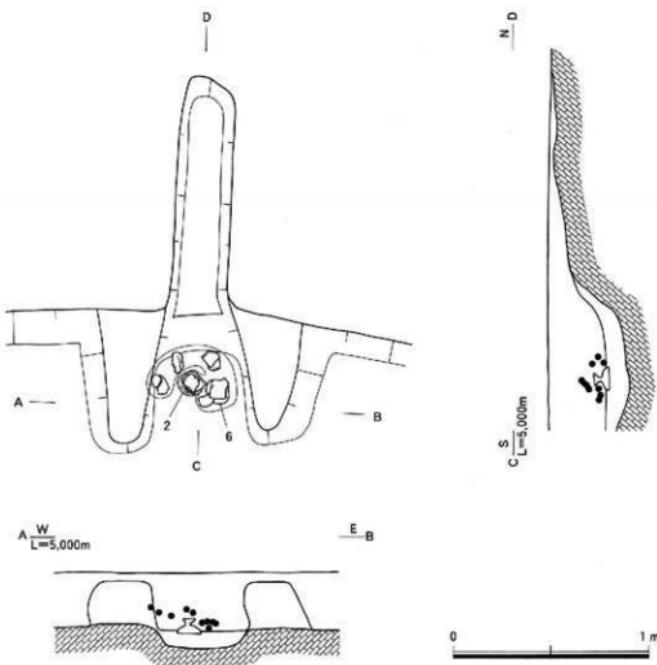
第485図 SB3039 平断面図



第486図 SB3039-EH1 平断面図



第487図 SB3039 遺物出土状況図



第488図 SB3039-EH1 遺物出土状況図

形態・規模 平面形態は長方形を呈し、長軸5.08m、短軸4.28m、表面積は約21.7m²を測る。残存する深度は0.43mである。

土層 29層に分層される。

柱穴 柱穴は4基検出されている。

土坑 北東、北西の隅にそれぞれ1基ずつ検出されている。いずれも皿状の浅いピットである。

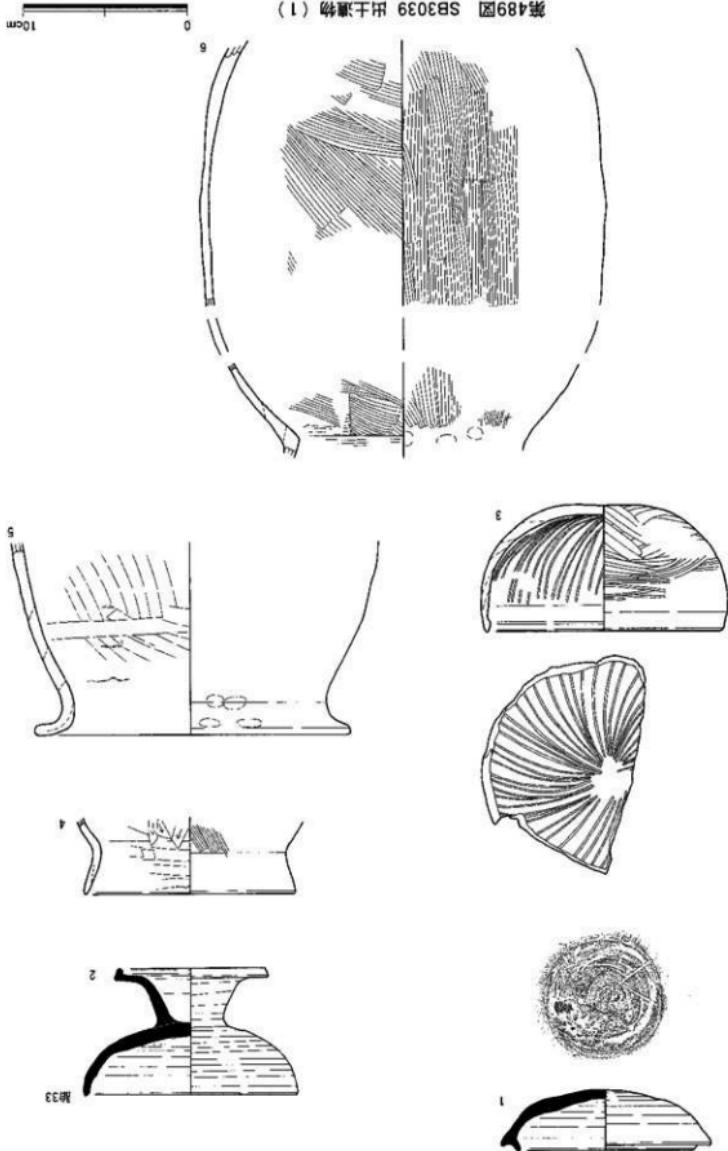
竈 北壁のほぼ中央に1基検出された。支脚に須恵器の高杯を倒置して使用している。袖部、燃焼部および煙道部が検出されており、煙道部の端は後世の構造に切られている。下部構造は検出されていない。

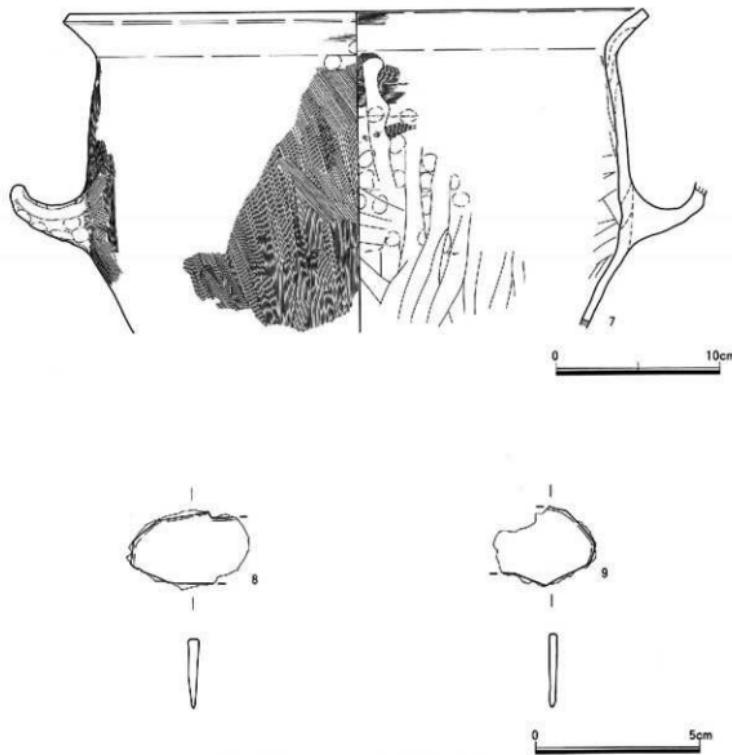
遺物出土状況 窯内および北側の床面を中心で検出された。

出土遺物 1は須恵器の高杯である。2は須恵器の甕である。3・4は土師器の甕である。3は外面体部にヘラ記号を持つ。5は土師器の椀である。6は滑石製の白玉である。7は鉄製の鎌である。8は鉄鎌である。

時期 出土した遺物から古墳時代後期（7世紀第2四半期・TK217並行期）と考えられる。

第489圖 SB3039 出土遺物 (1)





第490図 SB3039 出土遺物（2）

44号竪穴住居跡（SB3044）（第515～523図）

検出場所 2003年度調査3-1区 Loc.G1・βII S19・20・T19・20グリッド

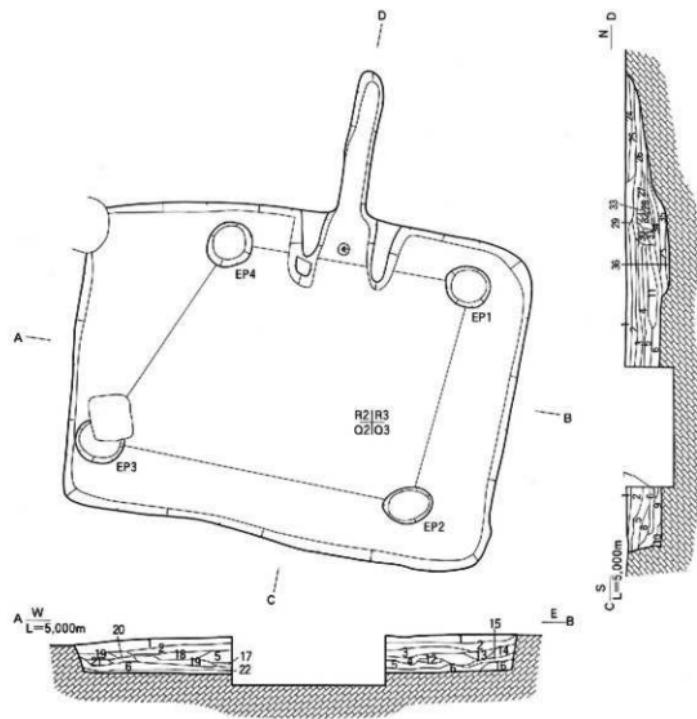
形態・規模 平面形状はほぼ方形を呈し、長軸4.73m、短軸4.60m、表面積は約21.8m²を測る。残存する深度は0.27mである。

土層 25層に分層される。

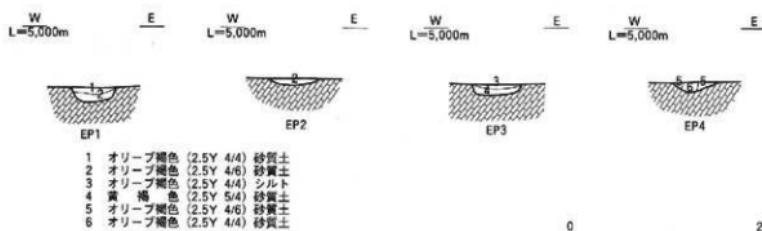
柱穴 柱穴は6基検出されている。主柱穴は4本とみられるが、EP2・EP4の脇にそれぞれ1基ずつ柱穴が検出されている。

竈 北壁のほぼ中央に1基検出された。支脚に須恵器の高杯を倒置して使用している。袖部、燃焼部および煙道部が検出されている。下部構造は検出されていない。

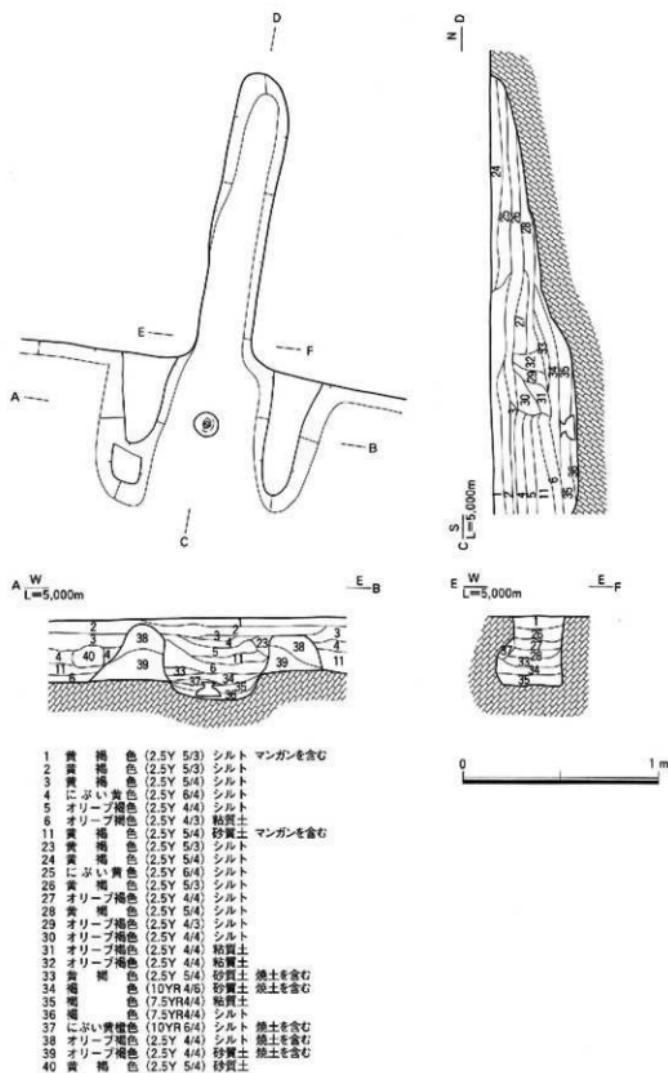
遺物出土状況 窟内およびその周辺部、また床面中央部を中心として検出されている。



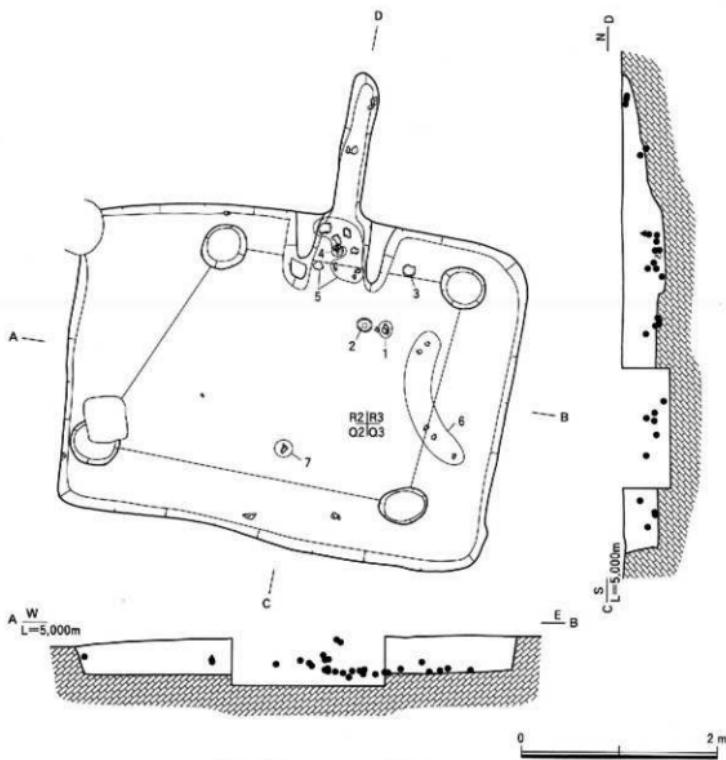
1 黄褐色 (2.5Y 5/3)	シルト マンガンを含む	12 オリーブ褐色 (2.5Y 4/4)	シルト マンガンを含む
2 黄褐色 (2.5Y 5/4)	シルト	13 オリーブ褐色 (2.5Y 4/4)	シルト
3 黄褐色 (2.5Y 5/4)	シルト	14 黄褐色 (2.5Y 5/4)	粘質土
4 黄褐色 (2.5Y 5/4)	シルト	15 オリーブ褐色 (2.5Y 4/3)	粘質土
5 オリーブ褐色 (2.5Y 4/4)	シルト	16 オリーブ褐色 (2.5Y 4/4)	シルト
6 オリーブ褐色 (2.5Y 4/3)	粘質土	17 黄褐色 (2.5Y 5/4)	シルト
7 オリーブ褐色 (2.5Y 4/4)	シルト	18 オリーブ褐色 (2.5Y 4/4)	シルト
8 オリーブ褐色 (2.5Y 4/4)	シルト	19 オリーブ褐色 (2.5Y 4/3)	粘質土
9 黄褐色 (2.5Y 5/3)	粘質土	20 オリーブ褐色 (2.5Y 4/3)	シルト
10 黄褐色 (2.5Y 5/4)	砂質土	21 にぶい黄色 (2.5Y 6/4)	シルト
11 黄褐色 (2.5Y 5/4)	砂質土 マンガンを含む	22 オリーブ褐色 (2.5Y 4/6)	砂質土



第491図 SB3040 平断面図



第492図 SB3040-EH1 平断面図



第493図 SB3040 遺物出土状況図

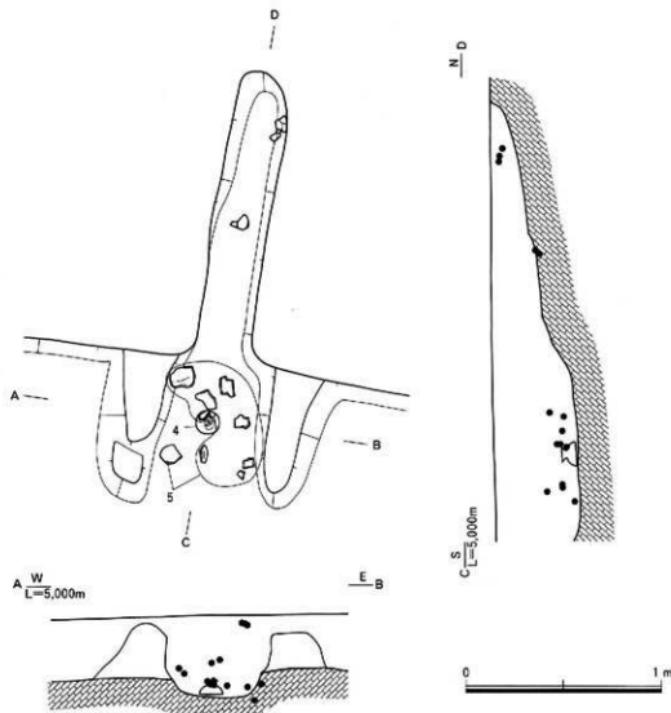
出土遺物 1・2は須恵器の杯蓋である。3～5は須恵器の杯身である。6は須恵器の高杯である。7は須恵器の壺である。8～13は土師器の壺である。11は外面体部にヘラ記号を持つ。14は土師器の鉢である。15は土師器の壺である。16は滑石の紡錘車である。表面に鋸歯文が線刻されている。17は砂質片岩の剥片である。18は泥岩の砥石である。19・20は砂岩の敲石である。21は砂質片岩の剥片である。受熱しており、甕の部材の可能性がある。22は滑石製の白玉の未成品である。23は鉄製の鎌である。24は鉄製の刀子である。25は鉄鎌である。26は棒状の鉄器である。27は釘である。

時期 出土した遺物から古墳時代後期（7世紀第1四半期・TK209並行期）と考えられる。

45号竪穴住居跡（SB3045）（第524～530図）

検出場所 2003年度調査3-1区 Loc.G1・ β III T1・2・ γ III A1・2グリッド

形態・規模 平面形態はほぼ方形を呈し、長軸4.63m、短軸4.30m、表面積は約19.9m²を測る。残存す



第494図 SB3040-EH1 遺物出土状況図

る深度は0.30mである。

土層 20層に分層される。

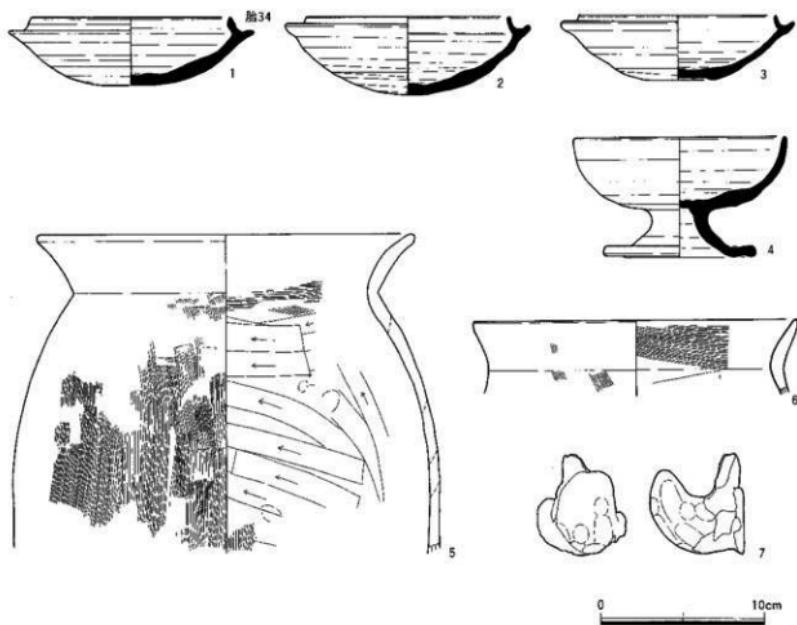
柱穴 柱穴は5基検出されている。主柱穴は4本とみられるが、床面中央やや東寄りで1基、柱穴が検出されている。

竈 北壁のほぼ中央から1基検出された。袖部、燃焼部および煙道部が検出されており、下部構造は検出されていない。

遺物出土状況 窯内および床面の北東隅を中心に検出されている。

出土遺物 1~3は須恵器の杯身である。4は須恵器の壺である。5は土師器の碗である。6~10は土師器の壺である。11~13は縄の羽口である。14は土錘である。15は砂岩の敲石である。16は用途不明の鉄器である。

時期 出土した遺物から古墳時代後期（7世紀第2四半期・TK217並行期）と考えられる。



第495図 SB3040 出土遺物

46号竪穴住居跡 (SB3046) (第531~537図)

検出場所 2003年度調査3-1区 Loc.G1・βII T19・20・γII A19・20・B20グリッド

形態・規模 平面形態はほぼ方形で、長軸6.00m、短軸5.78m、表面積は約34.7m²を測る。残存する深度は0.39mである。

土層 20層に分層される。

柱穴 柱穴は6基検出されている。主柱穴は4本とみられるが、北東側の柱は後世の造構によって失われている。

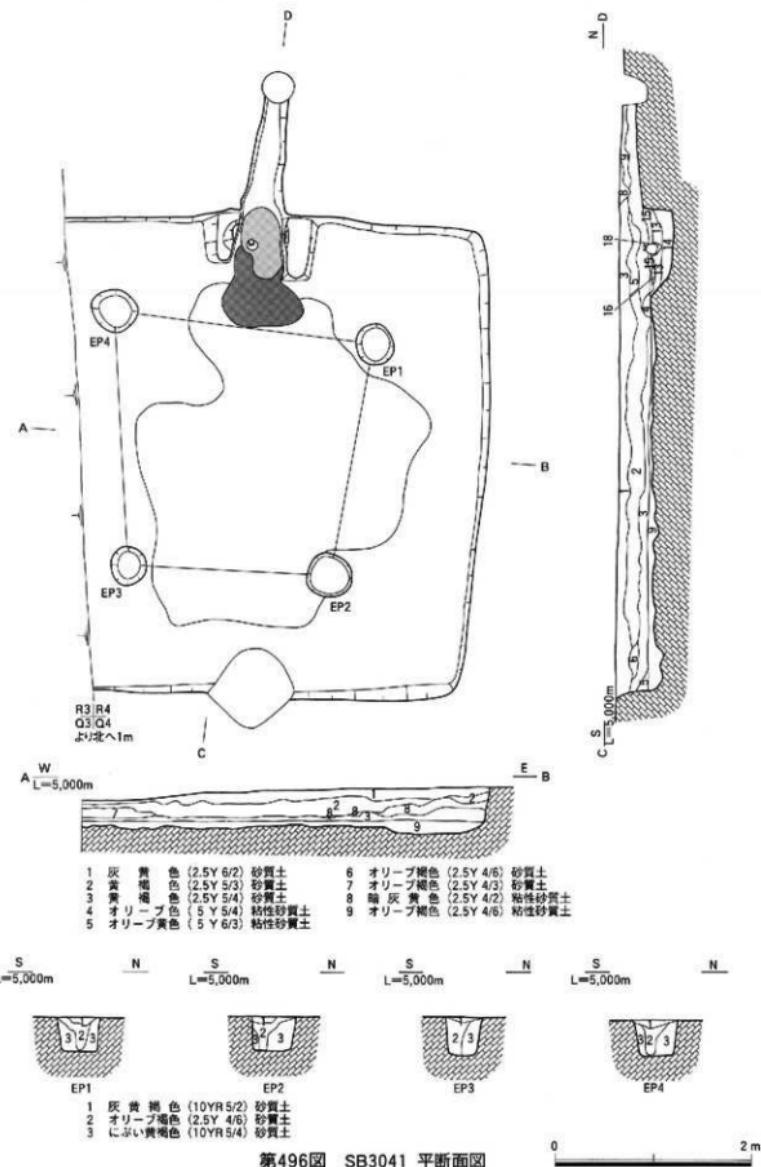
窓 北壁のほぼ中央から1基検出された。支脚は須恵器の高杯を倒置させて使用している。袖部、燃焼部および煙道部が検出されている。下部構造は検出されていない。

遺物出土状況 窓内および床面南東部分に集中して検出された。

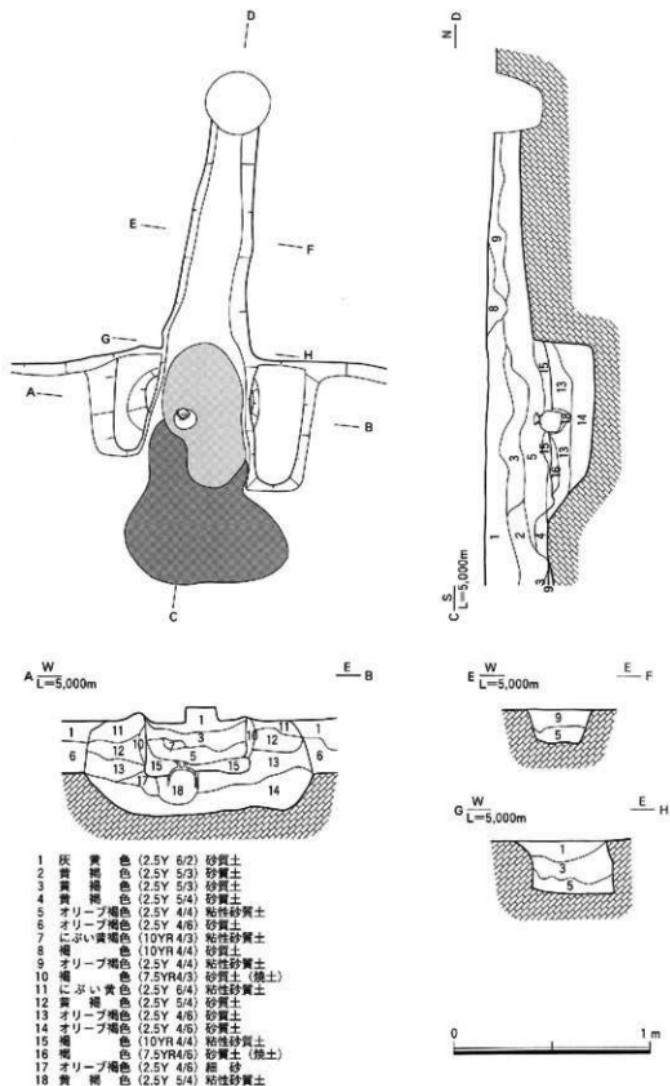
出土遺物 1・2は須恵器の杯蓋である。3~5は須恵器の杯身である。6・7は須恵器の高杯である。

8は須恵器の壺である。9は須恵器の壺である。10~12は土師器の壺である。13は土師器の瓶である。14は滑石製の臼である。15は棒状の鉄器である。

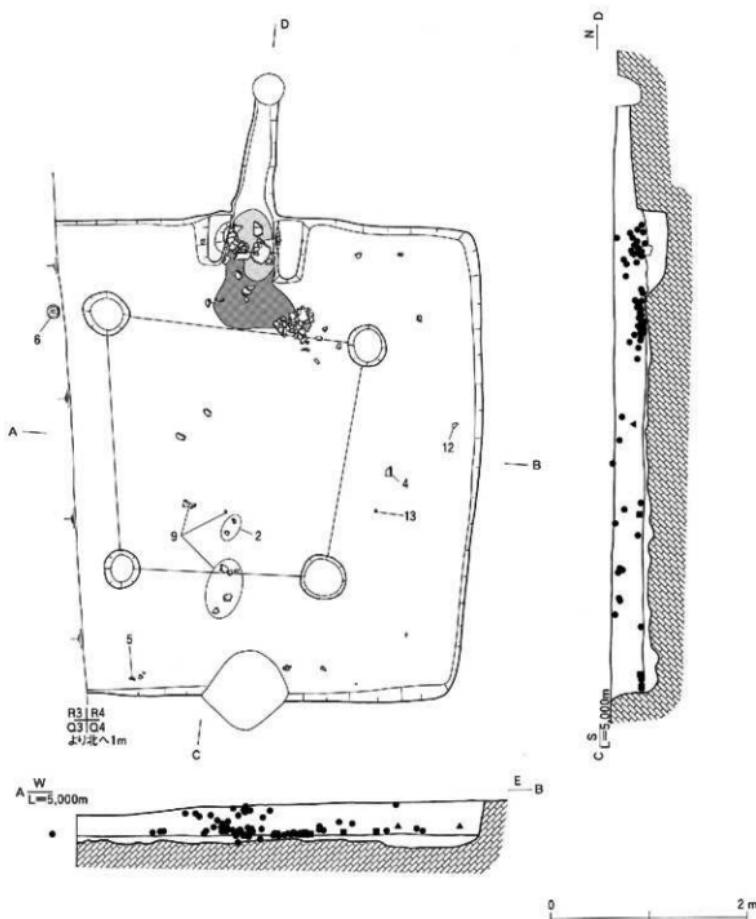
時期 出土した遺物から古墳時代後期（6世紀第4四半期・TK43並行期）と考えられる。



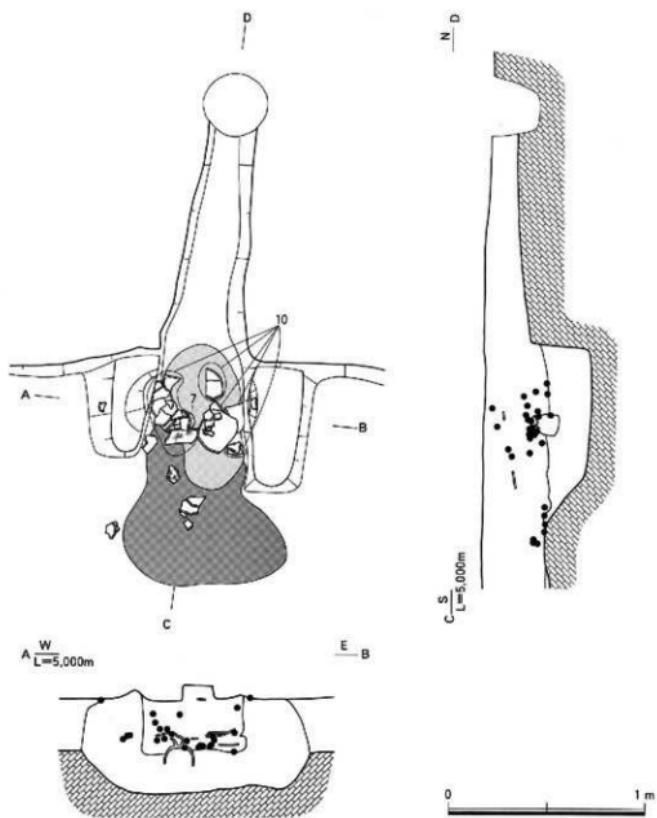
第496図 SB3041 平断面図



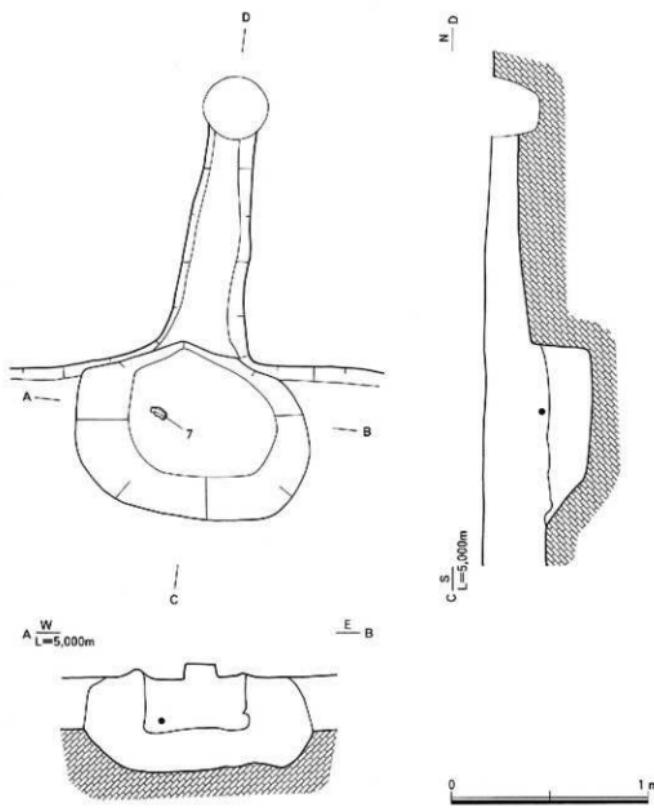
第497図 SB3041-EH1 平断面図



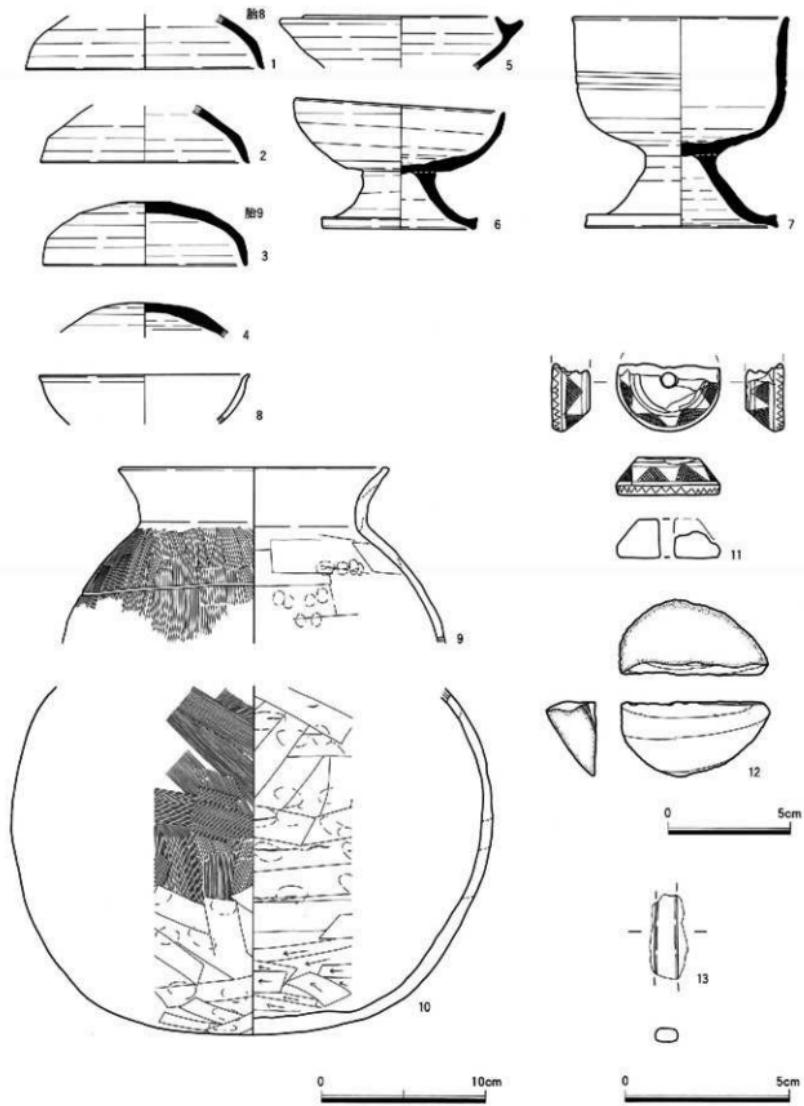
第498図 SB3041 遺物出土状況図



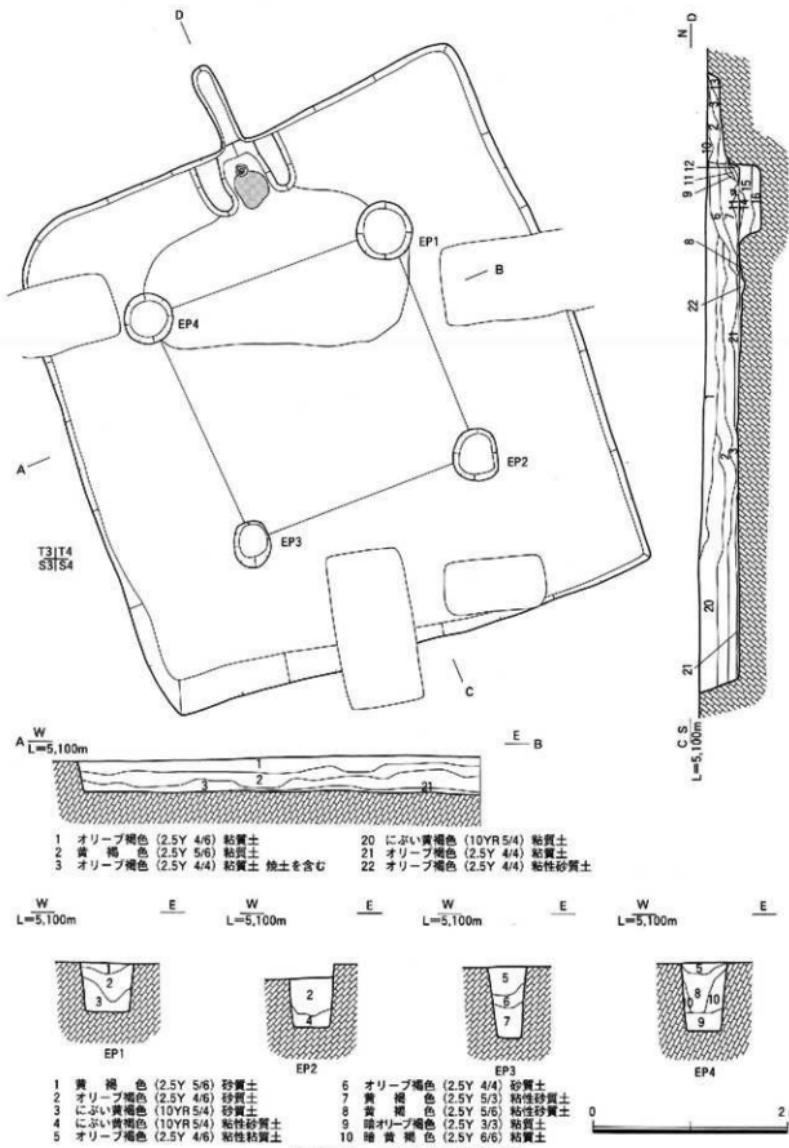
第499図 SB3041-EH1 遺物出土状況図



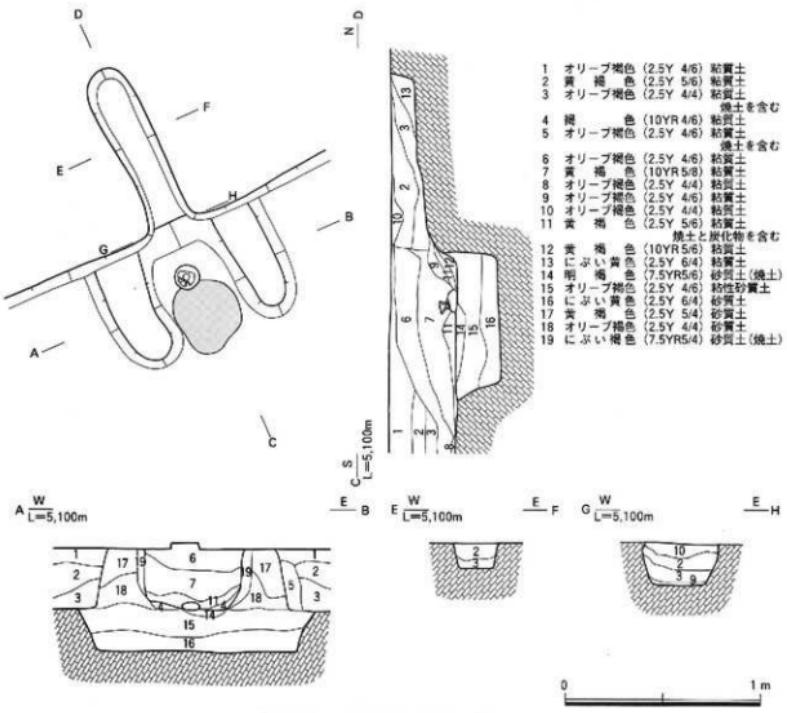
第500図 SB3041-EH1 下部構造遺物出土状況図



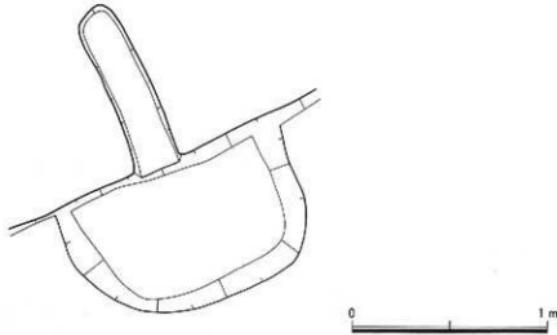
第501図 SB3041 出土遺物



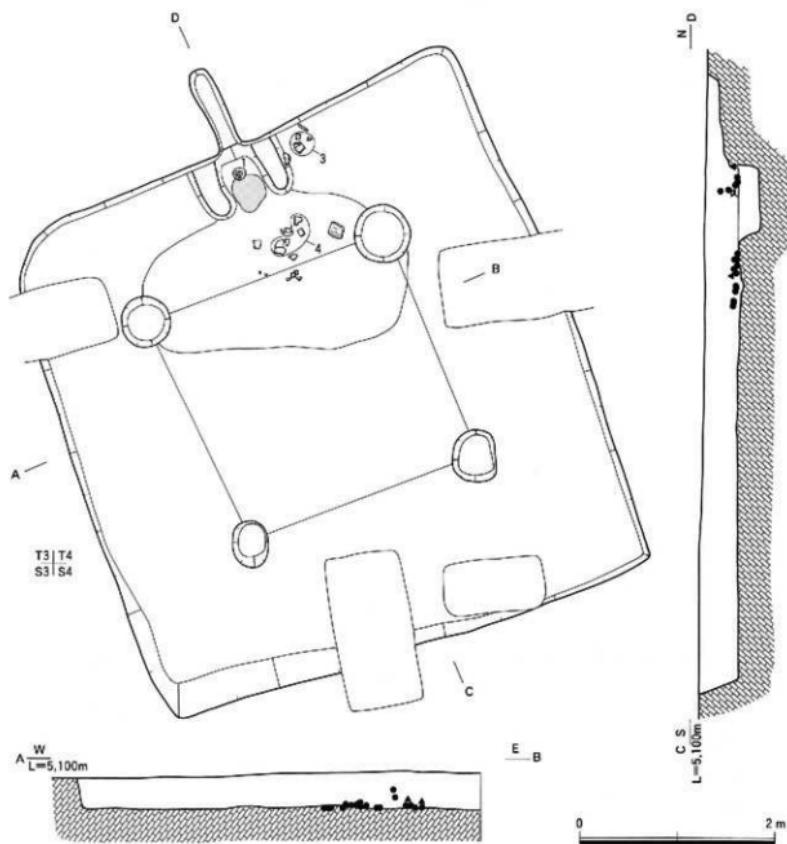
第502図 SB3042 平面図



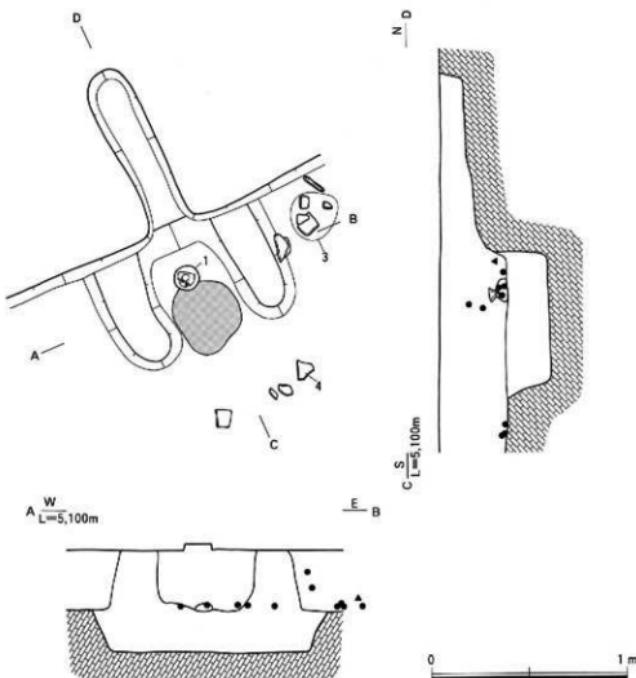
第503図 SB3042-EH1 平断面図



第504図 SB3042-EH1 下部構造図



第505図 SB3042 遺物出土状況図



第506図 SB3042-EH1 遺物出土状況図

47号竪穴住居跡 (SB3047) (第538~544図)

検出場所 2003年度調査3-1区 Loc.G1・γⅡB20・C20・γⅢB1・C1グリッド

形態・規模 平面形状はほぼ方形を呈し、長軸5.65m、短軸4.95m、表面積は約28.0m²を測る。残存する深度は0.44mである。

土層 32層に分層される。

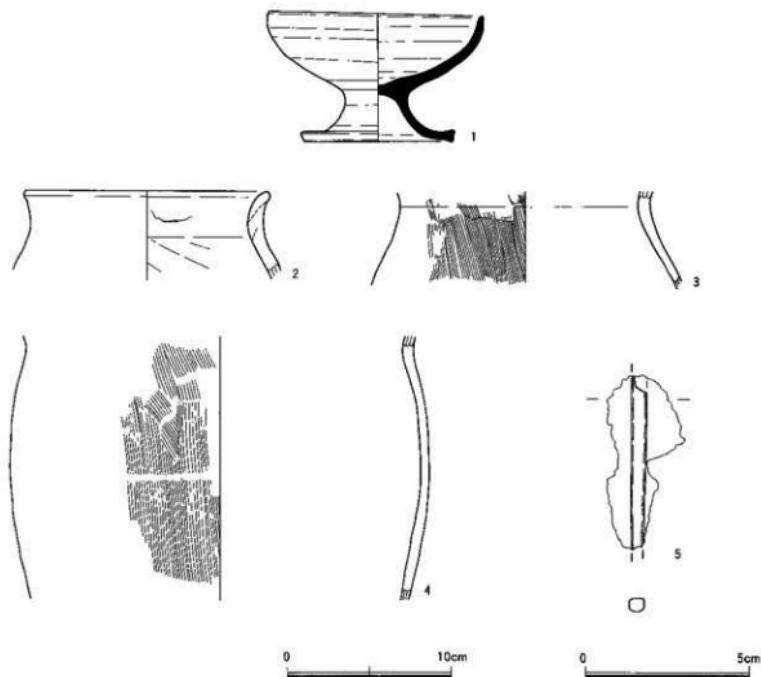
柱穴 柱穴は4基検出されている。

周壁溝 壁沿い四方向から検出されている。ただし南壁中央付近では空白がみとめられた。

竈 北壁中央付近で1基検出された。支脚に須恵器の高杯を倒置して使用している。袖部および煙道部が検出されており、燃焼部から焚き口部分周辺にかけて焼土や炭化物の拡がりが検出されている。また燃焼部は北壁から外に張り出すような形で設けられている。

遺物出土状況 窯周辺および床面中央付近から検出されている。

出土遺物 1は須恵器の杯蓋である。2~5は須恵器の杯身である。6・7は須恵器の高杯である。8は須恵器の提瓶である。9は土師器の碗である。10~15は土師器の壺である。10は外面体部にヘラ記号



第507図 SB3042 出土遺物

を持つ。16は砂質片岩の剥片である。17は用途不明の鉄器である。

時期 出土した遺物から古墳時代後期（6世紀第4四半期・TK43並行期）と考えられる。

48号竪穴住居跡（SB3048）（第545~550図）

検出場所 1999年度調査5区 Loc.G1・γIII C5・6・D5・6グリッド

形態・規模 平面形態はほぼ方形を呈し、長軸6.90m、短軸6.68m、表面積は約46.1m²を測る。残存する深度は0.53mである。

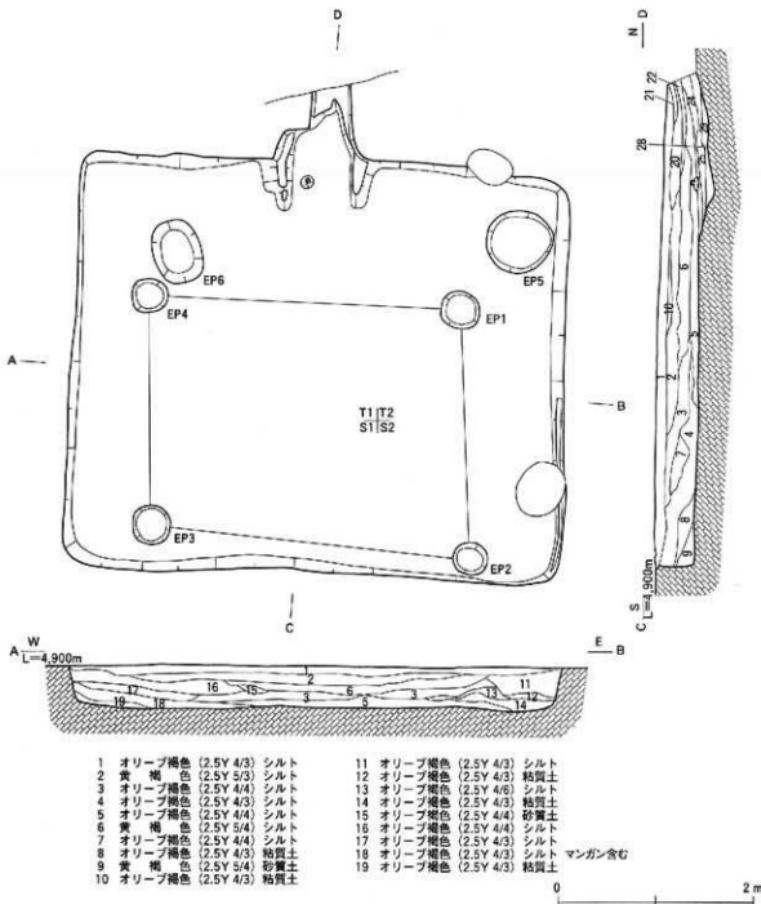
土層 11層に分層される。

柱穴 6基検出されており、その内主柱穴は4基と考えられる。

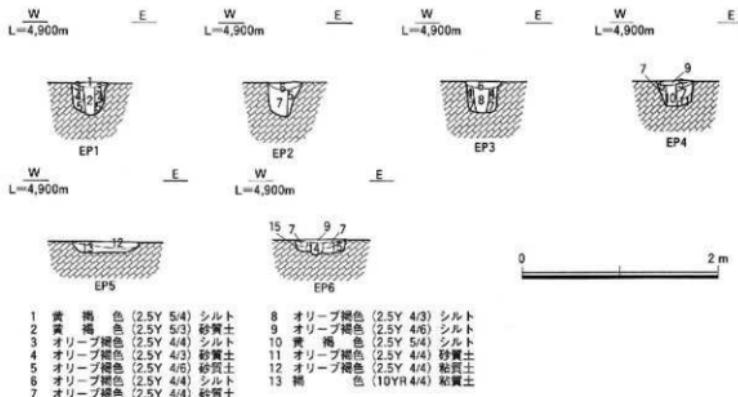
竪 竪世の土坑によって主要な部分は失われており、煙道部の一部のみが検出された。

遺物出土状況 床面の中央部を中心として検出されている。

出土遺物 1は須恵器の高杯である。2は須恵器の壺である。3は須恵器の提瓶である。4は鉄鎌である。



第508図 SB3043 平断面図



第509図 SB3043・EP 断面図

時期 出土した遺物から古墳時代後期（6世紀第4四半期・TK43並行期）と考えられる。

49号竪穴住居跡（SB3049）（第551～558図）

検出場所 1999年度調査5区 Loc.G1・γIII D3・4・E3・4グリッド

形態・規模 平面形態はほぼ方形を呈し、長軸5.28m、短軸5.13m、表面積は約27.1m²を測る。残存する深度は0.40mである。

土層 26層に分層される。床面の中央部を中心として張り床とみられる土層の堆積がみとめられた。

周壁溝 壁沿い四方向から検出されている。

柱穴 柱穴は4基検出されている。

竪 東壁のほぼ中央から1基検出された。支脚に須恵器の高杯を倒置して使用している。袖部、燃焼部および煙道部が検出されており、燃焼部内からは焼土の拡がりが確認されている。下部構造は楕円形の土坑が掘削されており、長軸1.03m、短軸0.93m、深度は0.26mを測る。

遺物出土状況 竪周辺および煙道部から検出されている。

出土遺物 1は須恵器の高杯である。2・3は土師器の甕である。4は土師器の瓶である。5は砂岩の砥石である。6は砂岩の敲石である。7・8は鐵錆である。

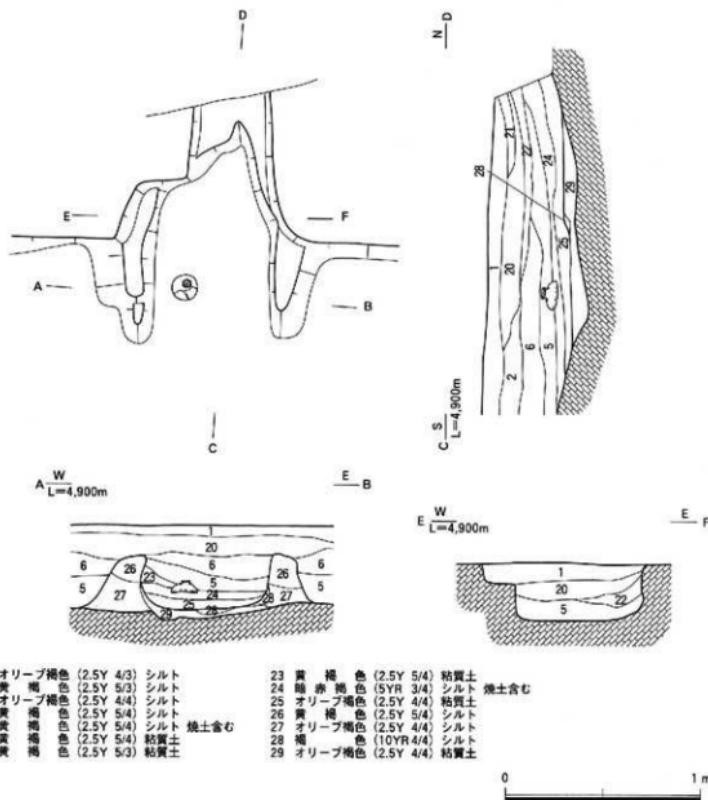
時期 出土した遺物から古墳時代後期（7世紀第2四半期・TK217並行期）と考えられる。

50号竪穴住居跡（SB3050）（第559～565図）

検出場所 2003年度調査3-1区 Loc.G1・γII C19・20・D19・20グリッド

形態・規模 平面形態はほぼ方形で、長軸4.61m、短軸4.45m、表面積は20.5m²を測る。残存する深度は0.46mである。

土層 22層に分層される。



第510図 SB3043-EH1 平断面図

柱穴 柱穴は4基検出されている。

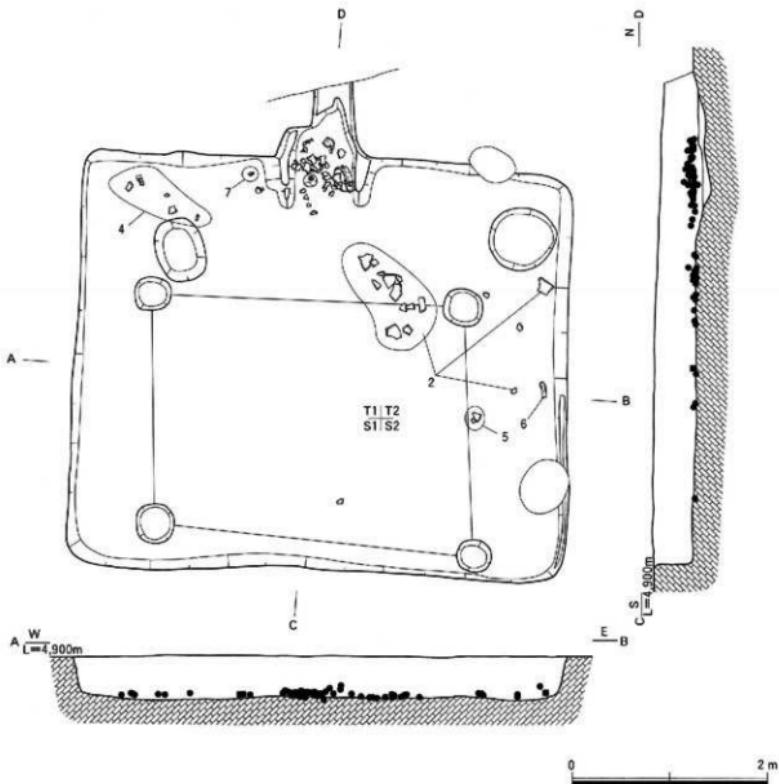
土坑 EP3に一部重複して1基検出された。平面形状は長方形で長軸1.55m、短軸0.80m、深度は0.10mを測る。

竈 北壁のほぼ中央から1基検出された。支脚に土師器の壺を使用しているとみられる。袖部、燃焼部および煙道部が検出されており、下部構造は検出されていない。

遺物出土状況 窟内および周辺部を中心として検出された。

出土遺物 1・2は須恵器の杯身である。3~12は土師器の壺である。

時期 出土した遺物から古墳時代後期（7世紀後半・TK217並行期）と考えられる。



第511図 SB3043 遺物出土状況図

51号堅穴住居跡（SB3051）（第566～574図）

検出場所 2003年度調査3-2区 Loc.G1・γII D15・16・E15・16グリッド

形態・規模 平面形態は長方形を呈し、長軸5.98m、短軸5.48m、表面積は約32.8m²を測る。残存する深度は0.53mである。

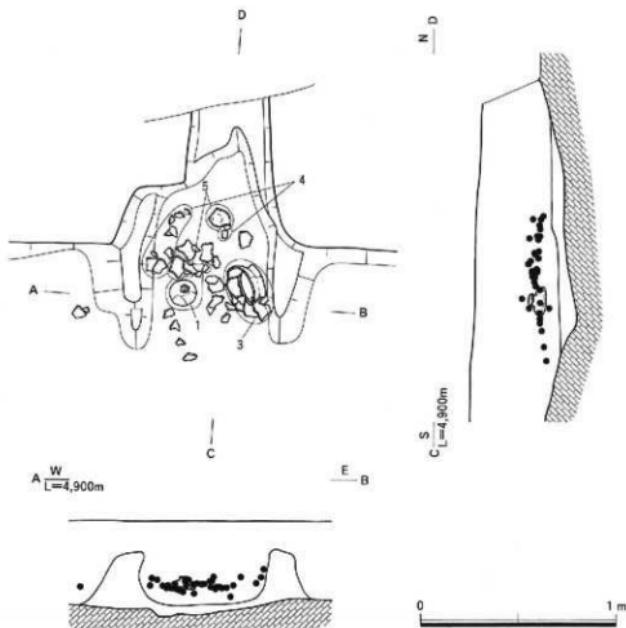
土層 44層に分層される。

柱穴 柱穴は4基検出されている。

竈 北壁のやや西寄りから1基検出された。袖部、燃焼部および煙道部が検出されており、燃焼部から焼土の拡がりがみとめられる。下部構造は検出されていない。

遺物出土状況 竈およびその周辺部と床面の南東隅から集中して検出された。

出土遺物 1～3は須恵器の杯蓋である。4～6は須恵器の杯身である。7は須恵器の高杯である。8・9は須恵器の壺である。10～13は土師器の壺である。14・15は土師器の瓶である。16は縄の羽口である。



第512図 SB3043-EH1 遺物出土状況図

17・18は土錐である。19は砂質片岩の剥片で受熱している。20は砂質片岩の揉錐用の押さえ具である。21は鉄錐である。22は棒状の鉄器である。

時期 出土した遺物から古墳時代後期（7世紀第2四半期・TK217並行期）と考えられる。

52号竪穴住居跡（SB3052）（第575～577図）

検出場所 2003年度調査3-2区 Loc.G 1・γII D13・14・E13・14・F13グリッド

形態・規模 西側が調査区外に延びているため、平面形状や規模は不明である。残存する深度は0.38mである。

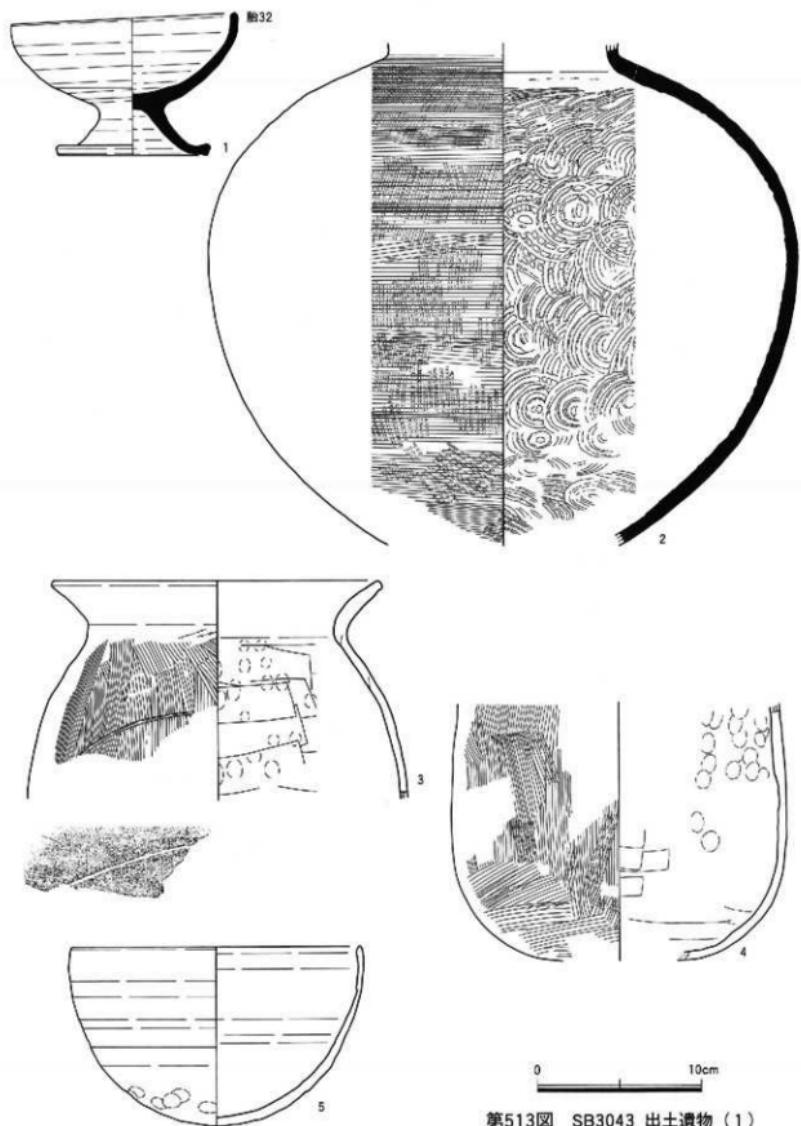
土層 9層に分層される。

柱穴 検出されていない。

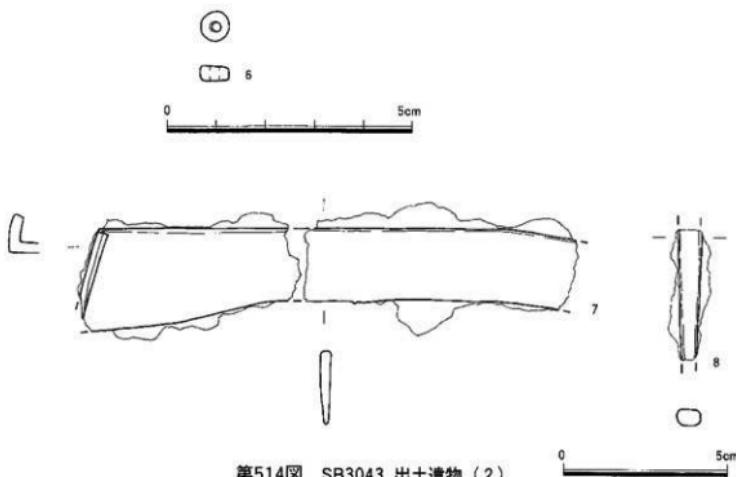
甕 固化されていないが調査区西壁の除去時に、住居の北壁から甕が検出されている。

遺物出土状況 南東隅より検出面の上面付近を中心として検出されている。また甕内からも土師器の甕が1個体出土した。

出土遺物 1・2は須恵器の杯身である。3・4は土師器の甕である。5は砂岩の蔽石である。



第513図 SB3043 出土遺物 (1)



第514図 SB3043 出土遺物（2）

時期 出土した遺物から古墳時代後期（7世紀第2四半期・TK217並行期）以降と考えられる。

53号竪穴住居跡（SB39053）（第578・579図）

検出場所 2003年度調査3-2区 Loc.G1・γII F15グリッド

形態・規模 北側が調査区外に延びているため、平面形状や規模は不明である。残存する深度は0.44mである。

土層 分層状況は明確されていない。

柱穴 検出されていない。

竪 検出されていない。

遺物出土状況 床面よりやや上から検出された。

出土遺物 1は須恵器の杯身である。

時期 出土した遺物から古墳時代後期（7世紀第2四半期・TK217並行期）以降と考えられる。

54号竪穴住居跡（SB3054）（第580～586図）

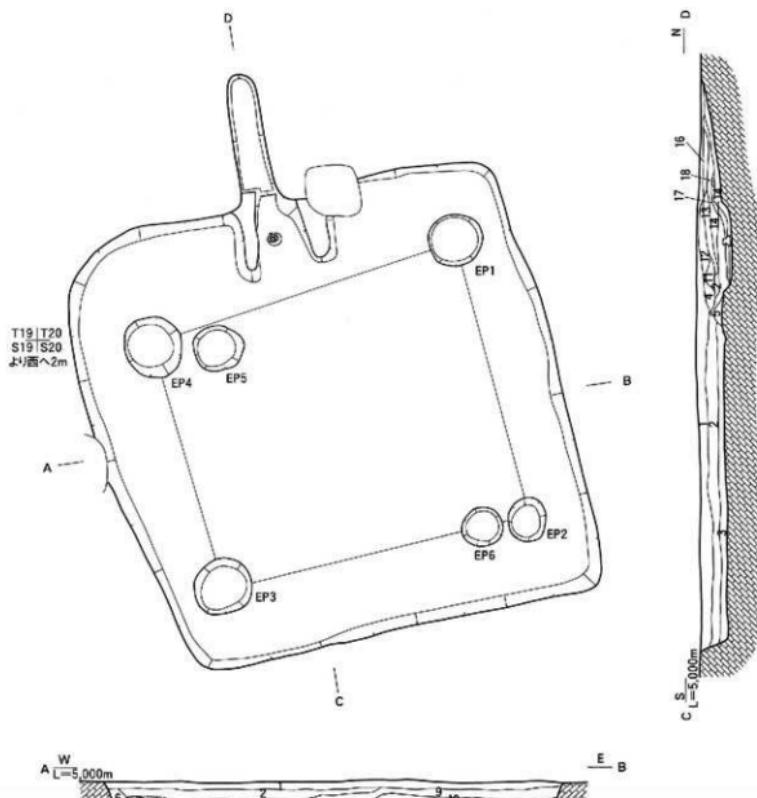
検出場所 1998年度調査9区 Loc.G1・γIII H8・9・18・9グリッド

形態・規模 平面形態は長方形を呈し、長軸5.05m、短軸3.77m、表面積は約19.0m²を測る。残存する深度は0.48mである。

土層 32層に分層される。

柱穴 7基検出されており、そのうちEP1～4が主柱穴と考えられる。

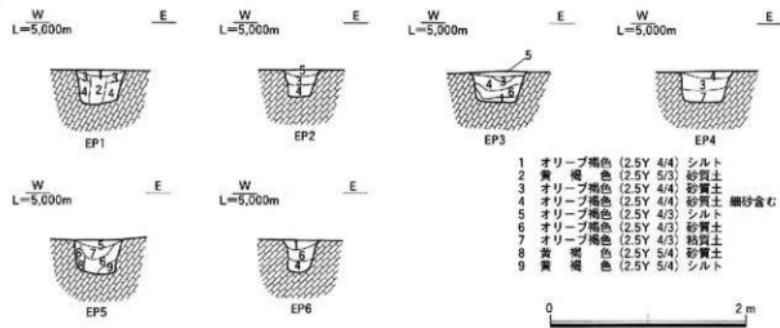
周壁溝 壁沿いの4方向より検出されている。



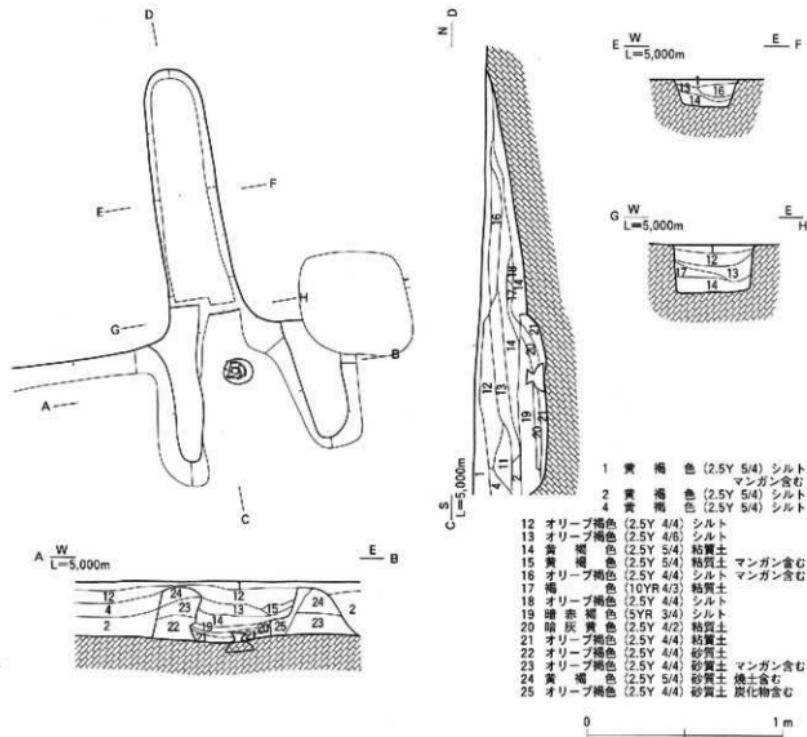
1	黄	褐	褐	色	(2.5Y 5/4)	シルト	マンガン含む
2	黄	褐	褐	色	(2.5Y 5/4)	シルト	
3	オ	リ	ブ	褐	(2.5Y 5/4)	シルト	
4	黄	黄	褐	褐	(2.5Y 5/4)	シルト	
5	黄	黄	褐	色	(2.5Y 5/4)	シルト	
6	黄	黄	褐	色	(2.5Y 5/4)	シルト	マンガン含む
7	黄	黄	褐	色	(2.5Y 5/4)	シルト	
8	黄	黄	褐	色	(2.5Y 5/3)	シルト	
9	黄	黄	褐	色	(2.5Y 5/4)	シルト	マンガン含む
10	黄	褐	褐	色	(2.5Y 5/3)	シルト	燒土わざかに含む

0 2 m

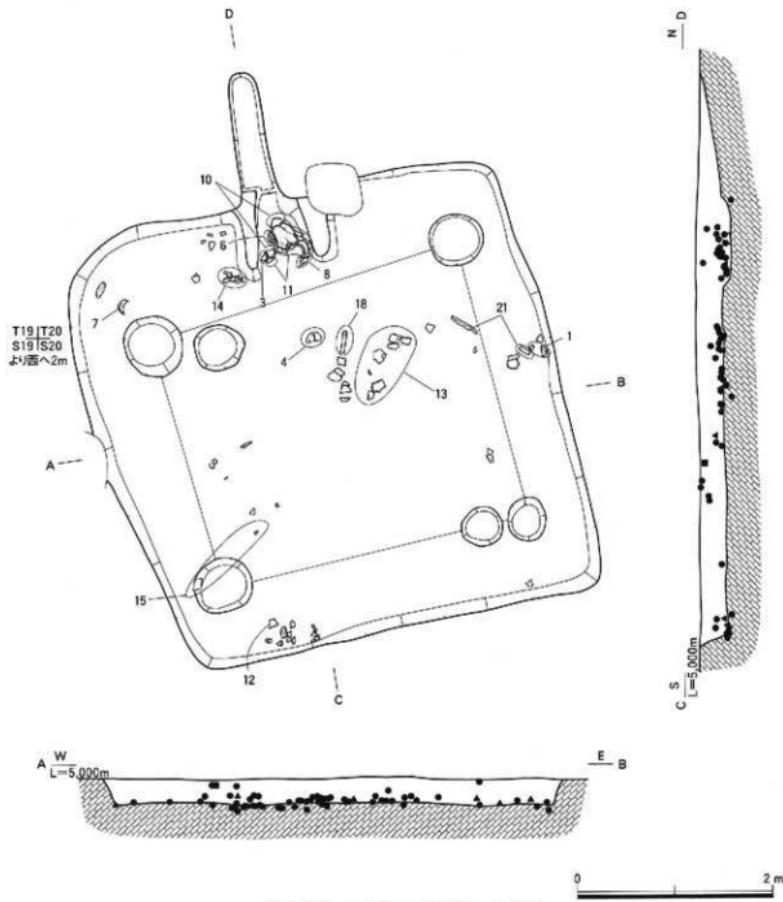
第515図 SB3044 平断面図



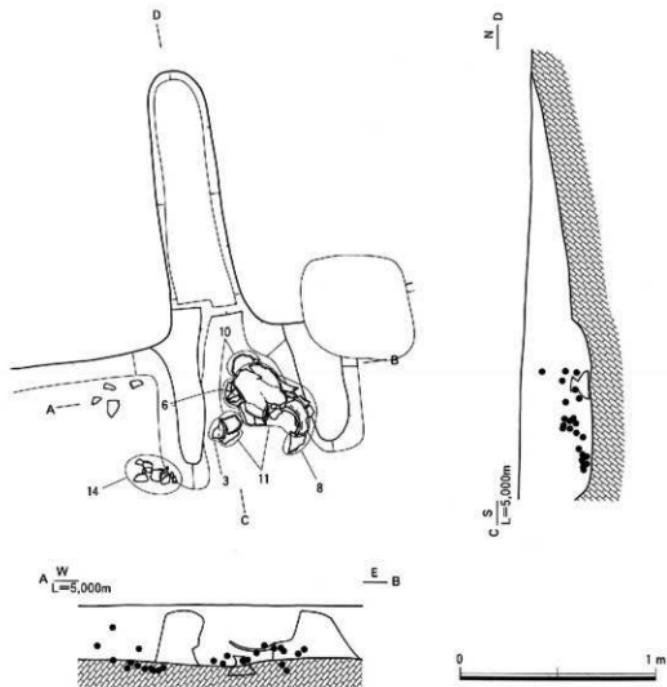
第516図 SB3044・EP 断面図



第517図 SB3044・EH1 平断面図



第518図 SB3044 遺物出土状況図



第519図 SB3044-EH1 遺物出土状況図

竈 北壁のほぼ中央から1基検出されている。支脚に土師器の臺を倒置して使用している。袖部、燃焼部および煙道部が検出されており、支脚の手前部分では焼土の拡がりが、焼き口付近と床面の中央部からは炭化物や灰層がそれぞれ検出されている。下部構造は楕円形の土坑が掘削されており、長軸1.08m、短軸0.70m、深度0.24mを測る。

遺物出土状況 窟内および床面の北半部から集中して検出されている。

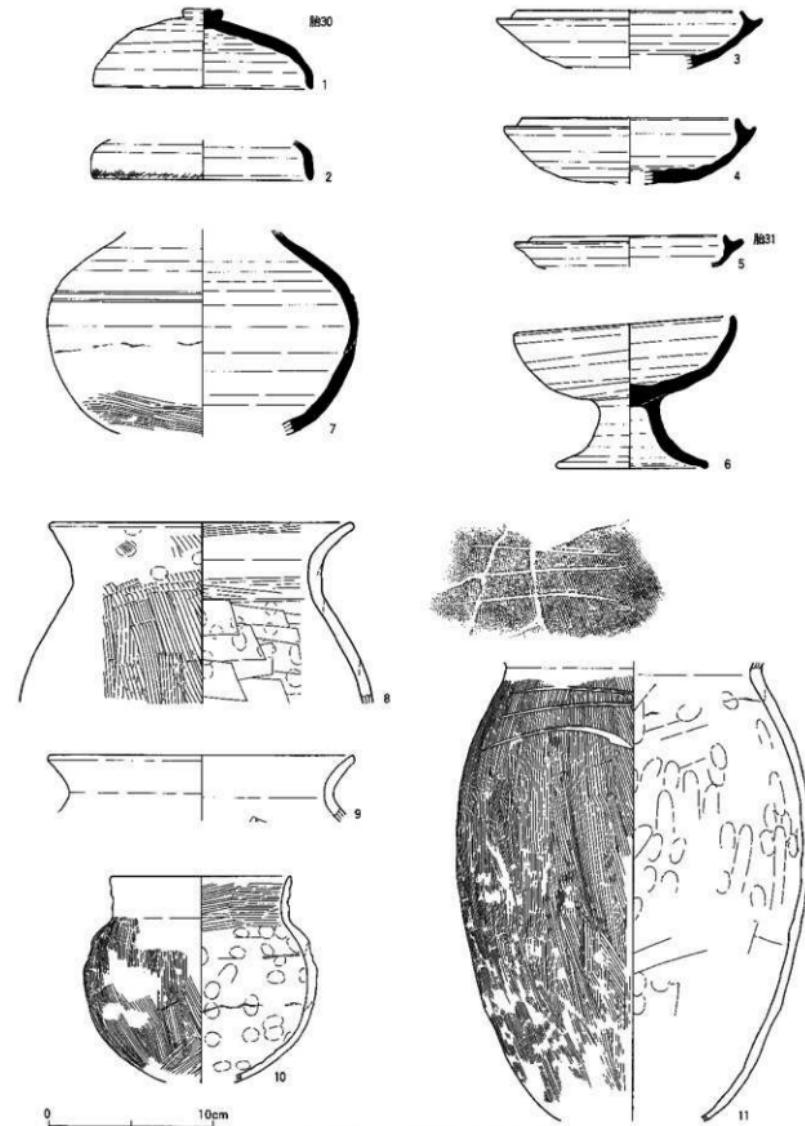
出土遺物 1・2は土師器の臺である。3は土師器の櫃である。4は砂岩の敲石である。

時期 出土した遺物や竈の形態などから判断して古墳時代後期と考えられる。

55号竪穴住居跡 (SB3055) (第587~591図)

検出場所 2003年度調査4-2区 Loc.G1・γII M19・20・N19・20グリッド

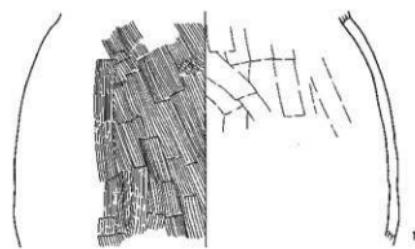
形態・規模 平面形態は長方形を呈し、長軸4.88m、短軸3.55m、表面積は約17.3m²を測る。残存する深度は0.24mである。



第520図 SB3044 出土遺物 (1)



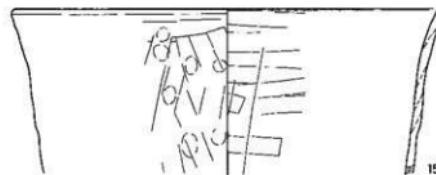
12



13



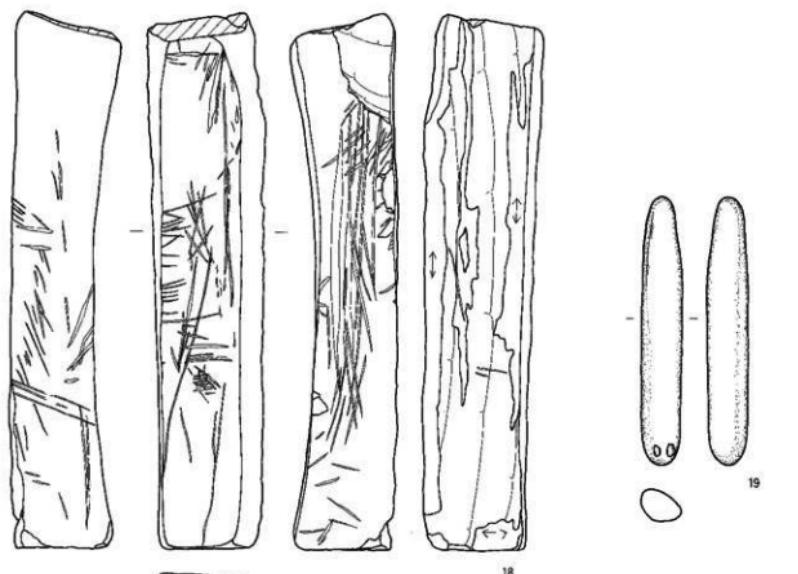
14



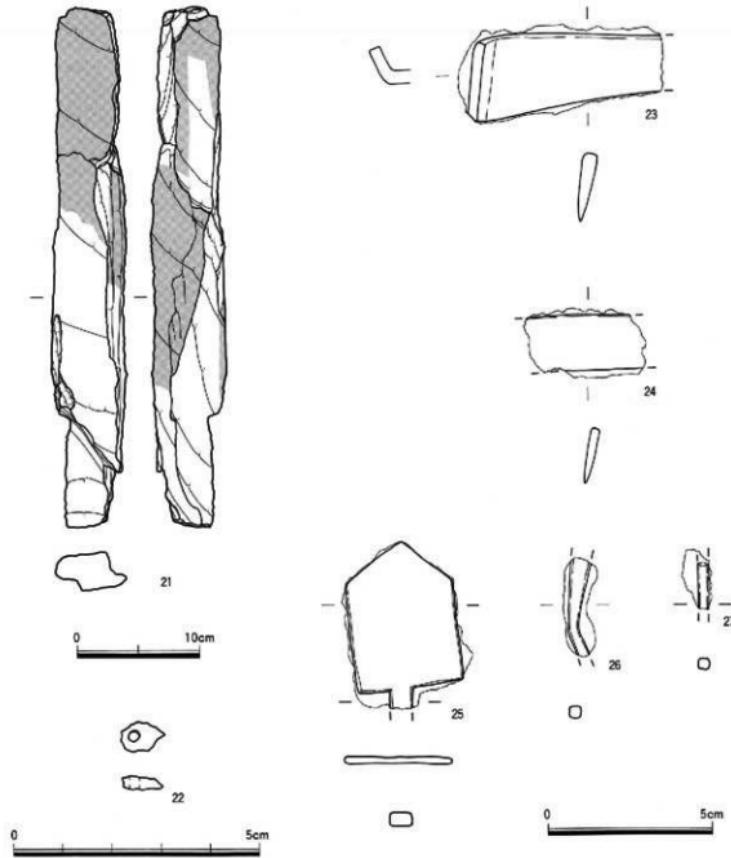
15

0 10cm

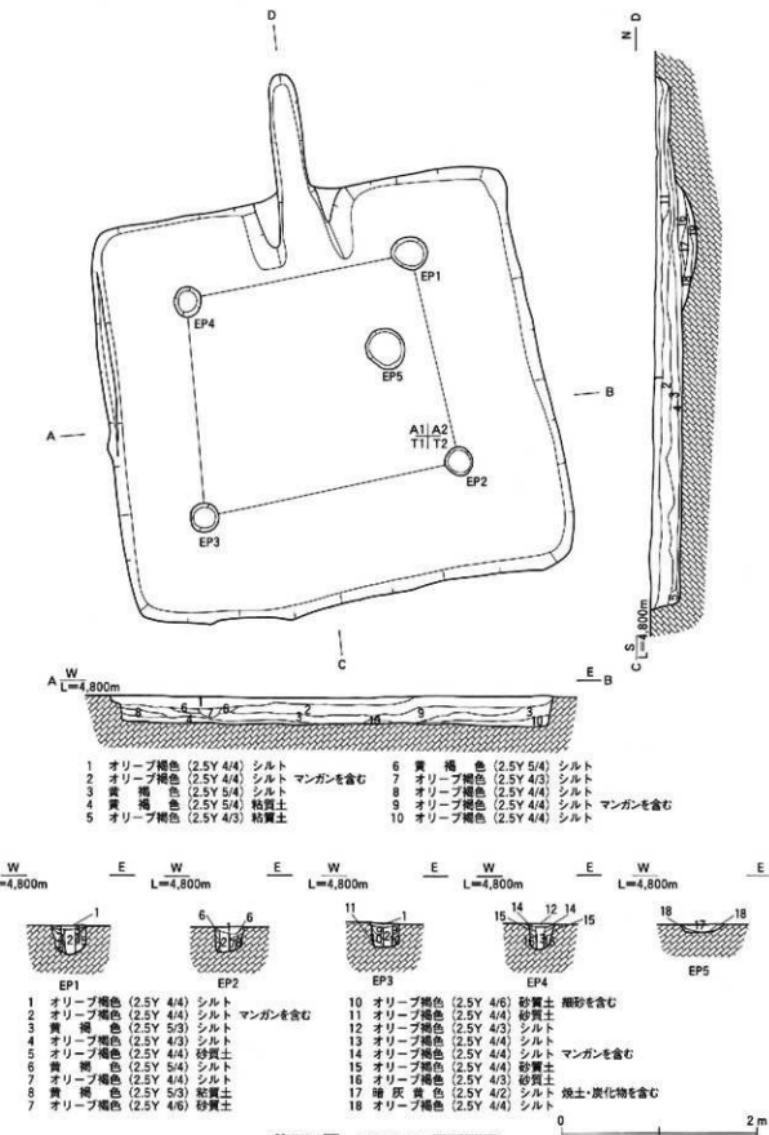
第521図 SB3044 出土遺物（2）



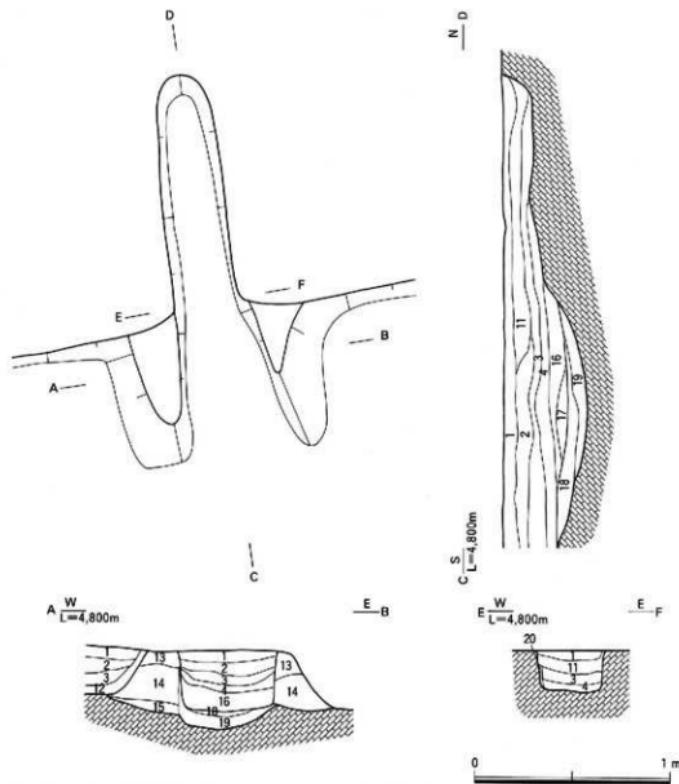
第522図 SB3044 出土遺物 (3)



第523図 SB3044 出土遺物 (4)

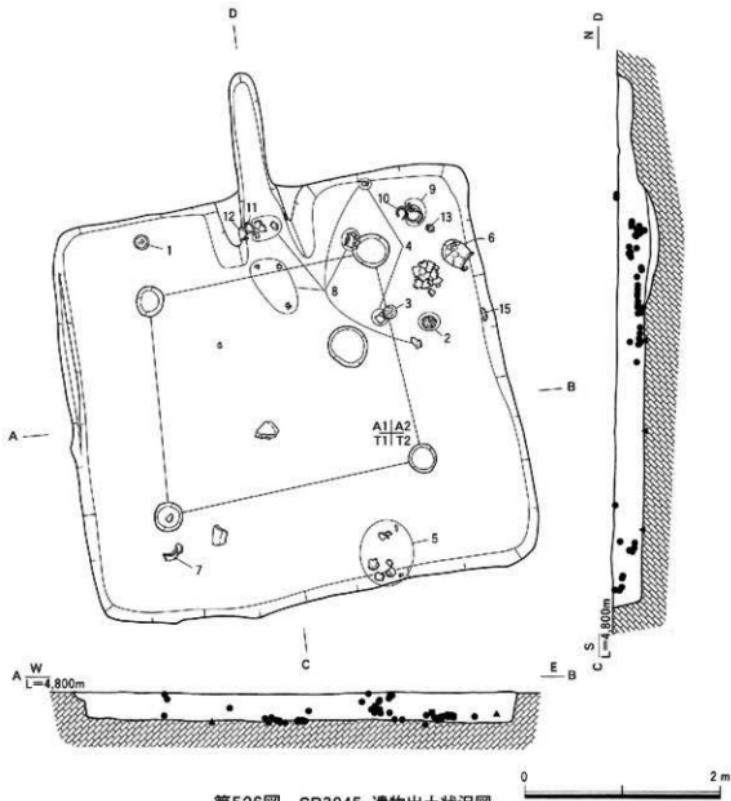


第524図 SB3045 平断面図



- | | | | |
|----------------------|-------------|----------------------|---------------|
| 1 オリーブ褐色 (2.5Y 4/4) | シルト | 14 オリーブ褐色 (2.5Y 4/4) | シルト |
| 2 オリーブ褐色 (2.5Y 4/4) | シルト マンガンを含む | 15 オリーブ褐色 (2.5Y 4/4) | 粘質土 焼土を含む |
| 3 黄褐色 (2.5Y 5/4) | シルト | 16 オリーブ褐色 (2.5Y 4/4) | シルト |
| 4 黄褐色 (2.5Y 5/4) | シルト | 17 黄褐色 (10YH 3/4) | 粘質土 焼土を含む |
| 11 オリーブ褐色 (2.5Y 5/4) | シルト | 18 オリーブ褐色 (2.5Y 4/3) | 粘質土 |
| 12 オリーブ褐色 (2.5Y 4/4) | シルト | 19 オリーブ褐色 (2.5Y 4/6) | 粘質土 炭化物を層状に含む |
| 13 黄褐色 (2.5Y 5/4) | シルト | 20 焼土層 | |

第525図 SB3045-EH1 平断面図



第526図 SB3045 遺物出土状況図

土層 38層に分層される。

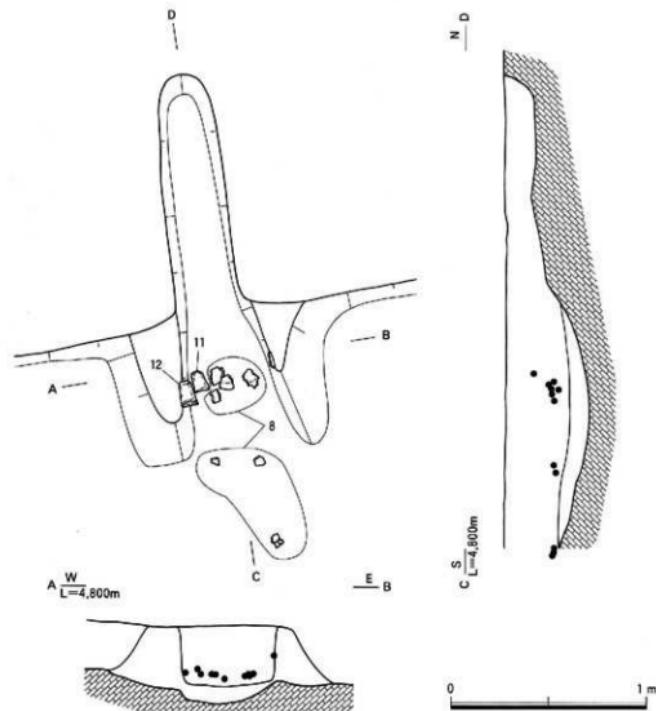
柱穴 6基検出されており、そのうちEP1・2・6が主柱穴の可能性が高い。

竈 北壁のやや東寄りから1基検出されている。袖部、燃焼部および煙道部が検出されており、燃焼部では焼土の括がりが、焚き口付近では炭化物や灰層がそれぞれ検出されている。下部構造は梢円形の土坑が掘削されているが固化されていない。長軸1.28m、短軸0.78m、深度0.27mを測る。

遺物出土状況 窟内および床面の北東隅と南壁寄りから検出されている。

出土遺物 1・2は須恵器の高杯である。3～5は土師器の壺である。6は砂質片岩の剥片で、受熱しており窓の部材と考えられる。

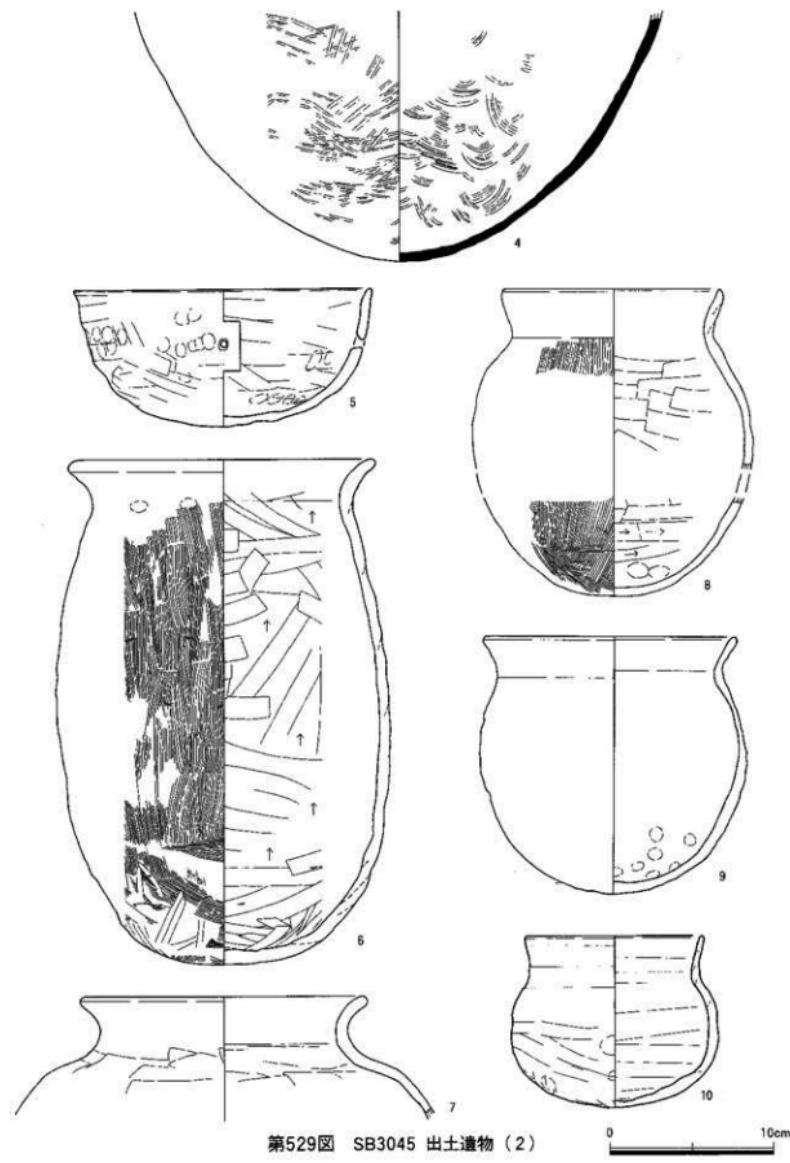
時期 出土した遺物から古墳時代後期（6世紀第4四半期・TK43並行期）以降と考えられる。



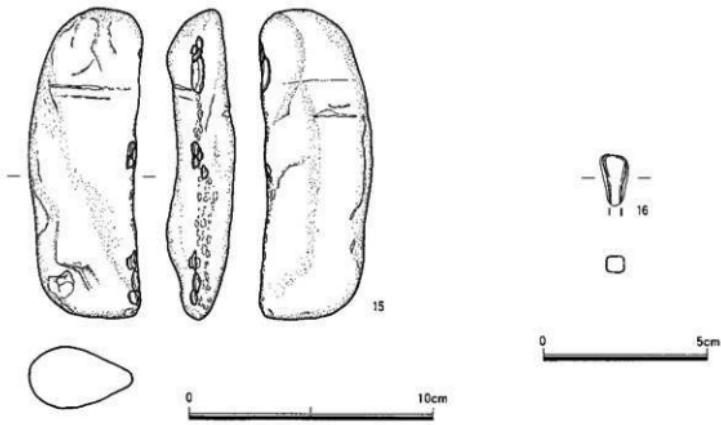
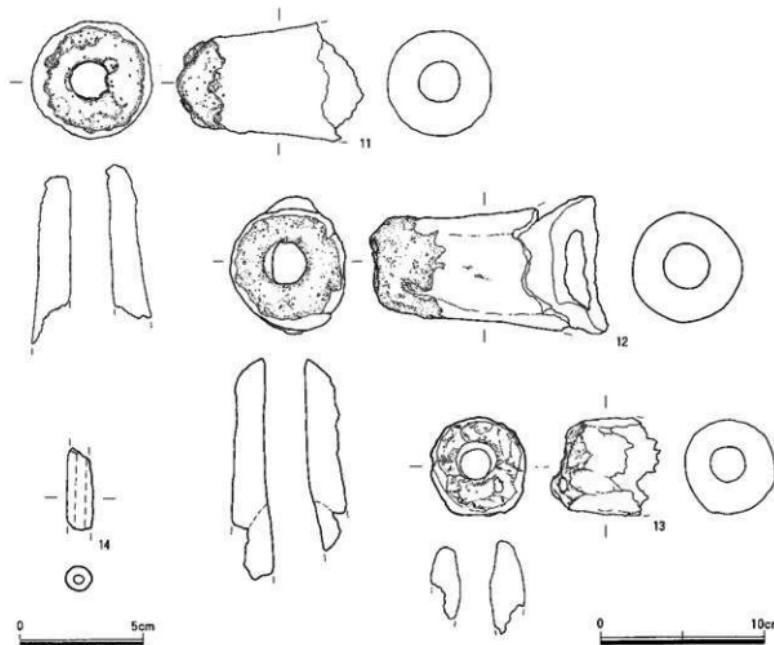
第527図 SB3045-EH1 遺物出土状況図



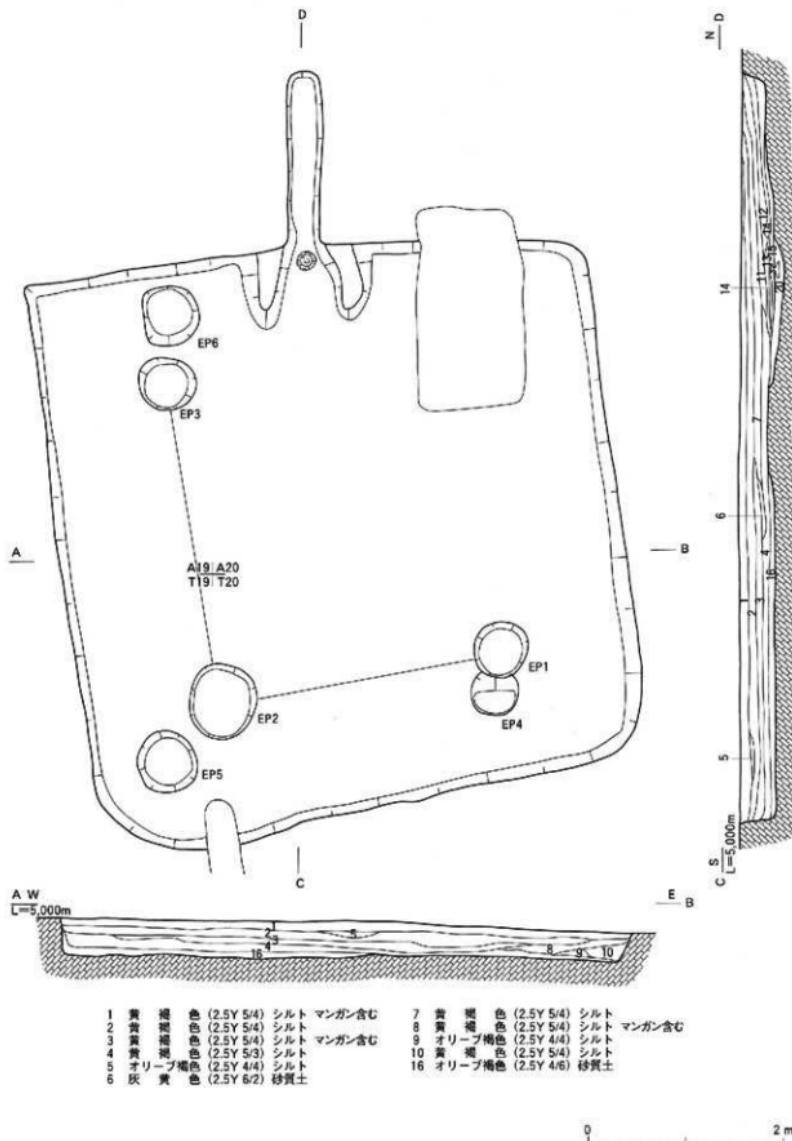
第528図 SB3045 出土遺物 (1)



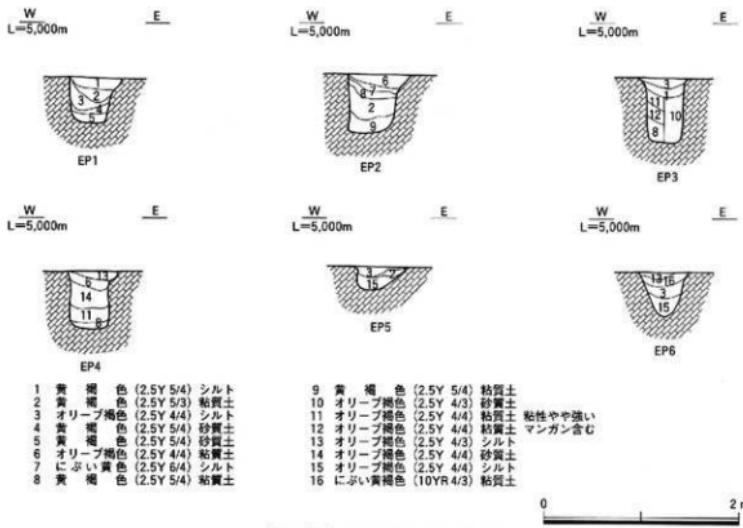
第529図 SB3045 出土遺物（2）



第530図 SB3045 出土遺物 (3)



第531図 SB3046 平断面図



第532図 SB3046・EP 断面図

56号竪穴住居跡 (SB3056) (第592~598図)

検出場所 2003年度調査4-2区 Loc.G1・γII S16・17・T16・17グリッド

形態・規模 平面形態は方形または長方形を呈するとみられるが、西側が調査区外に延びている。長軸5.30m、短軸3.46m（残存値）、表面積は約18.3m²（残存値）を測り、残存する深度は0.56mである。土層 49層に分層される。

柱穴 主柱穴は4本柱とみられるが、東側の2基のみ検出されている。

周壁溝 西側を除く3方向から検出されている。

竪 沈積物に1基検出された。袖部、燃焼部および煙道部が検出されており、燃焼部から焚き口にかけて焼土および炭化物の拡がりが確認された。下部構造は検出されていない。

遺物出土状況 窟内および南壁沿いを中心で検出された。

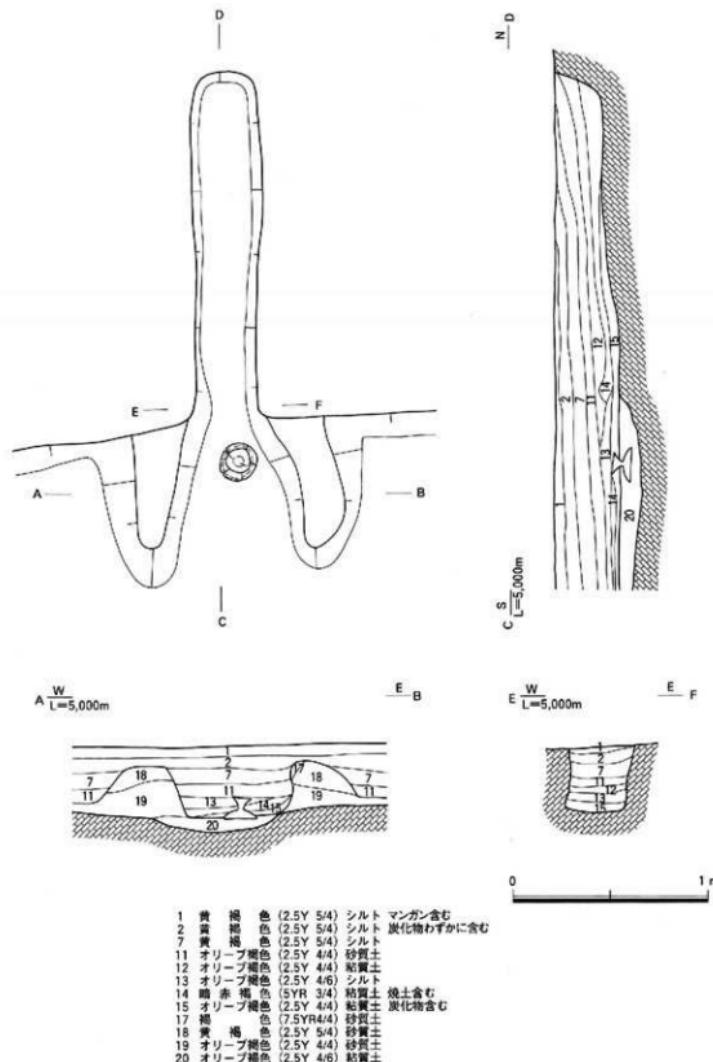
出土遺物 1は須恵器の杯蓋である。外面天頂部にヘラ記号を持つ。2は須恵器の杯身である。3・4は須恵器の高杯である。5~8は須恵器の壺である。

時期 出土した遺物から古墳時代後期（7世紀第1四半期・TK209並行期）と考えられる。

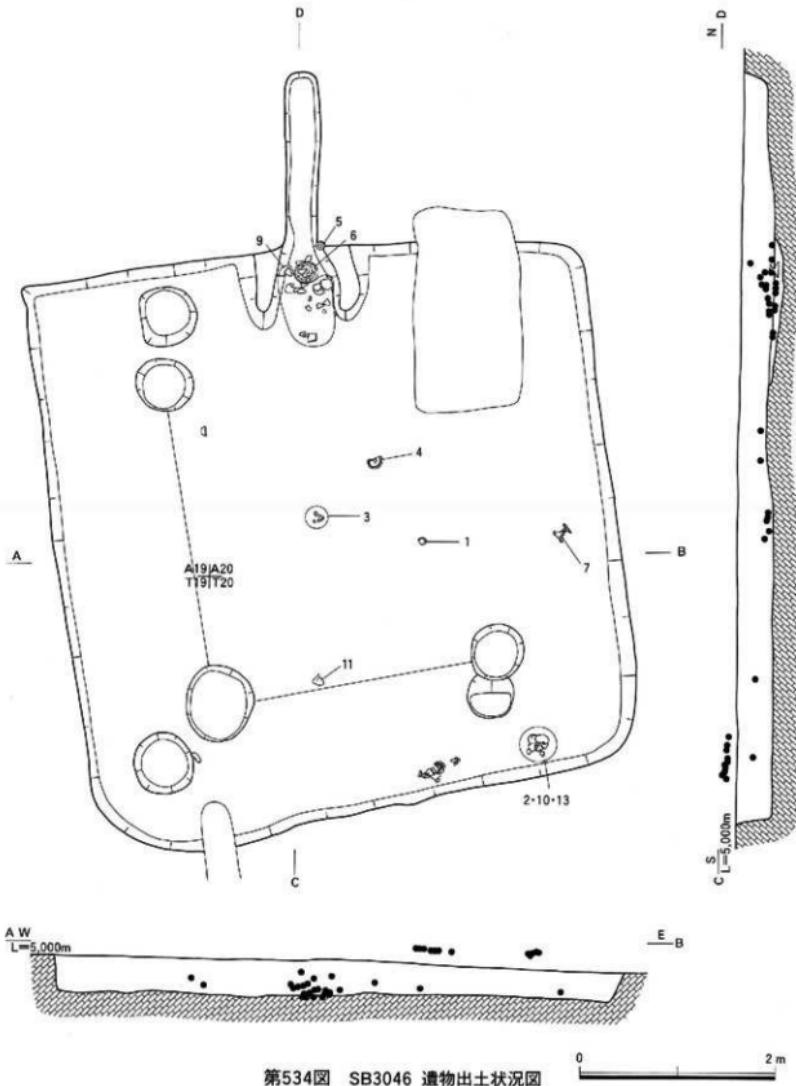
57号竪穴住居跡 (SB3057) (第599~604図)

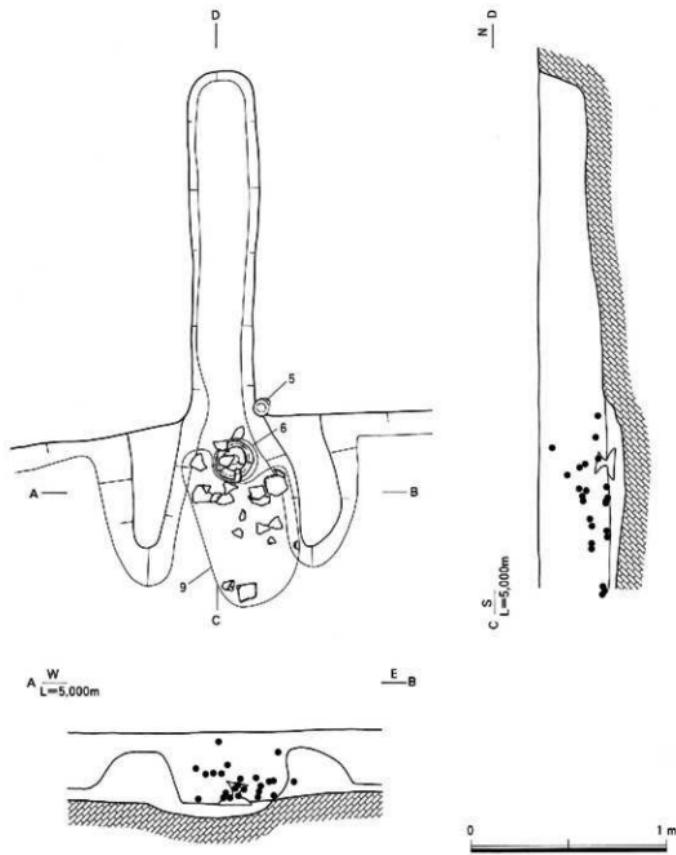
検出場所 2003年度調査4-2区 Loc.G1・δII B17・C17グリッド

形態・規模 平面形態は長方形を呈し、長軸4.48m、短軸3.77m、表面積は約16.9m²を測る。残存する深度は0.41mである。

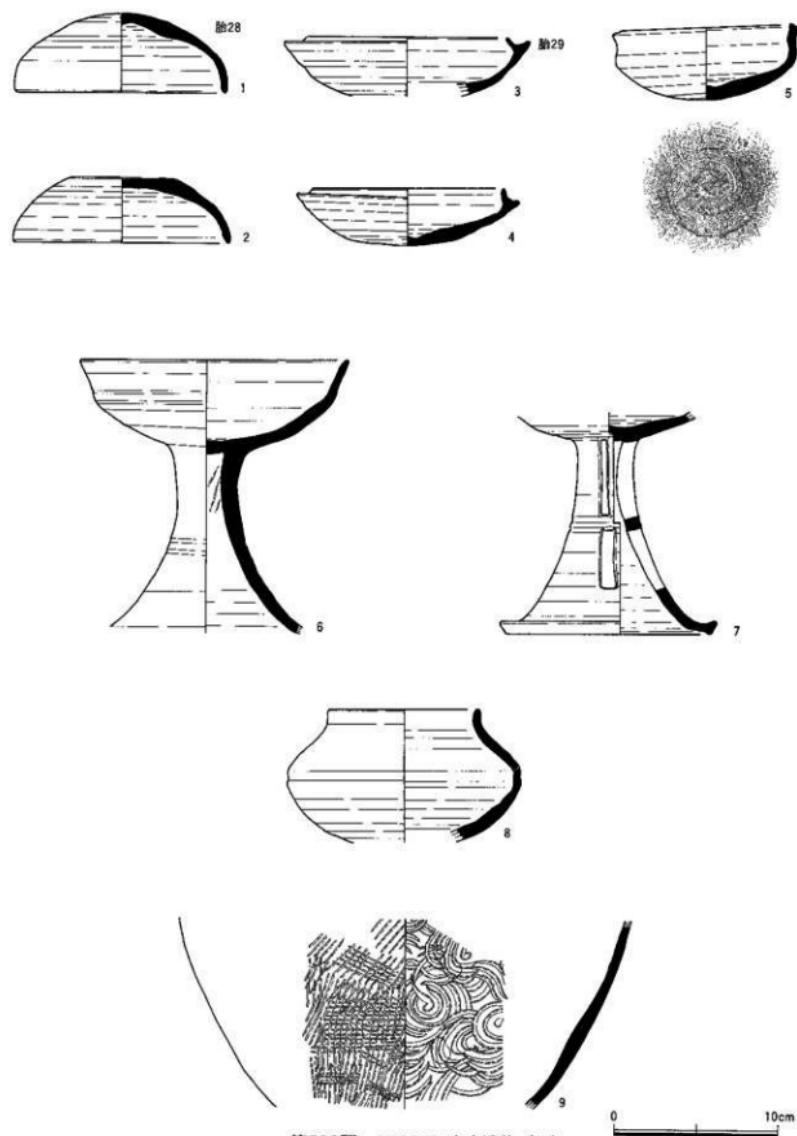


第533図 SB3046・EH1 平断面図

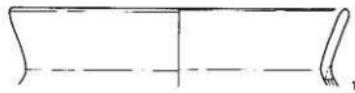
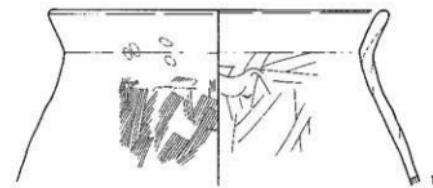
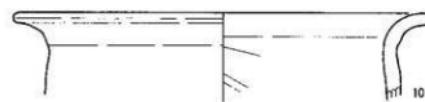




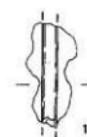
第535図 SB3046-EH1 遺物出土状況図



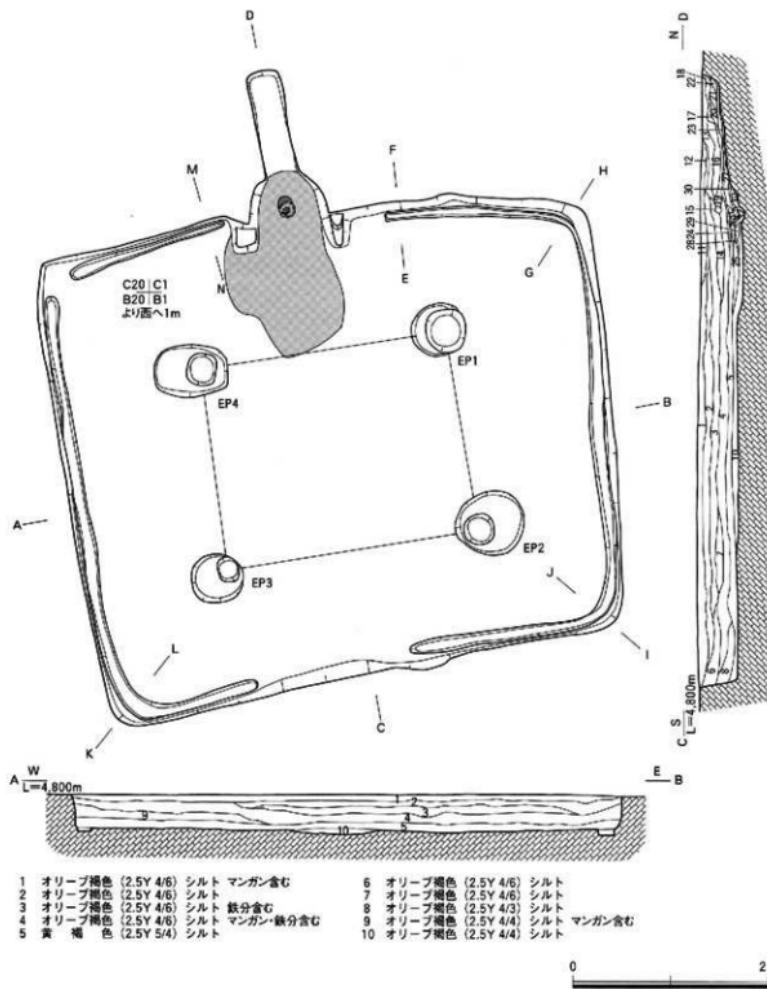
第536図 SB3046 出土遺物 (1)



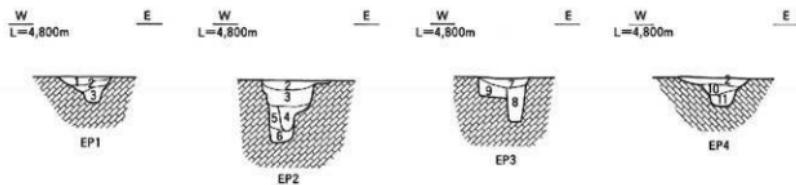
⑨¹⁴
⑩



第537図 SB3046 出土遺物 (2)

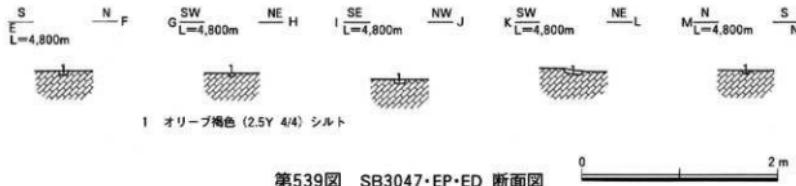


第538図 SB3047 平断面図



- 1 オリーブ褐色 (2.5Y 4/6) シルト
 2 オリーブ褐色 (2.5Y 4/4) シルト
 3 オリーブ褐色 (2.5Y 4/4) 粘質土
 4 暗オリーブ褐色 (2.5Y 3/3) 粘質土
 5 オリーブ褐色 (2.5Y 4/4) 粘質土
 6 オリーブ褐色 (2.5Y 4/6) 粘質土

- 7 橙色 (10YR 4/4) シルト
 8 にぶい黄褐色 (10YR 4/3) 粘質土
 9 にぶい黄褐色 (10YR 4/3) 粘質土
 10 オリーブ褐色 (2.5Y 4/3) 粘質土
 11 オリーブ褐色 (2.5Y 4/4) シルト



第539図 SB3047・EP・ED 断面図

土層 59層に分層される。

柱穴 柱穴は4基検出されている。

竈 北壁のほぼ中央に1基検出された。支脚に須恵器の高杯を倒置して利用している。袖部、燃焼部および煙道部が検出されており、燃焼部から焚き口にかけて炭化物の抜がりがみとめられた。

遺物出土状況 竈を中心として検出されている。また床面の西壁沿いを中心に炭化物の抜がりがみとめられた。

出土遺物 1～3は須恵器の杯蓋である。4～7は須恵器の杯身である。7は外底部にヘラ記号を持つ。8は須恵器の高杯である。9は須恵器の壺である。10・11は土師器の壺である。12・13は上鍤である。14は石英粗面岩の砥石である。

時期 出土した遺物から古墳時代後期（7世紀後半期・TK217並行期）と考えられる。

58号竪穴住居跡（SB3058）（第605～609図）

検出場所 2001年度調査区5区・2003年度調査4～2区 Loc.G1・6II S13・T12・13・eII A13グリッド

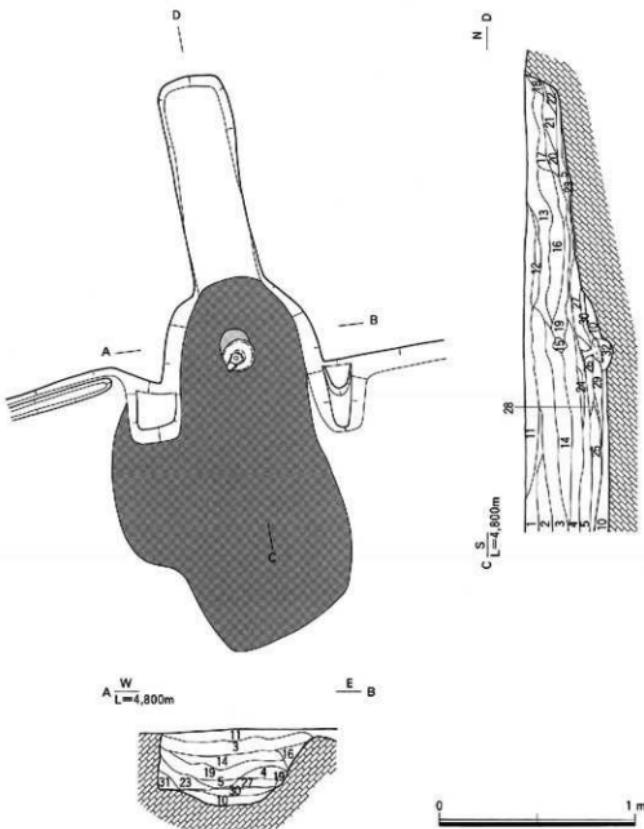
形態・規模 平面形態はほぼ方形を呈し、長軸5.18m、短軸4.90m、表面積は25.4m²を測る。残存する深度は0.23mである。

土層 39層に分層される。

柱穴 柱穴は4基検出されているが、主柱穴は東側の2本のみ検出されている。

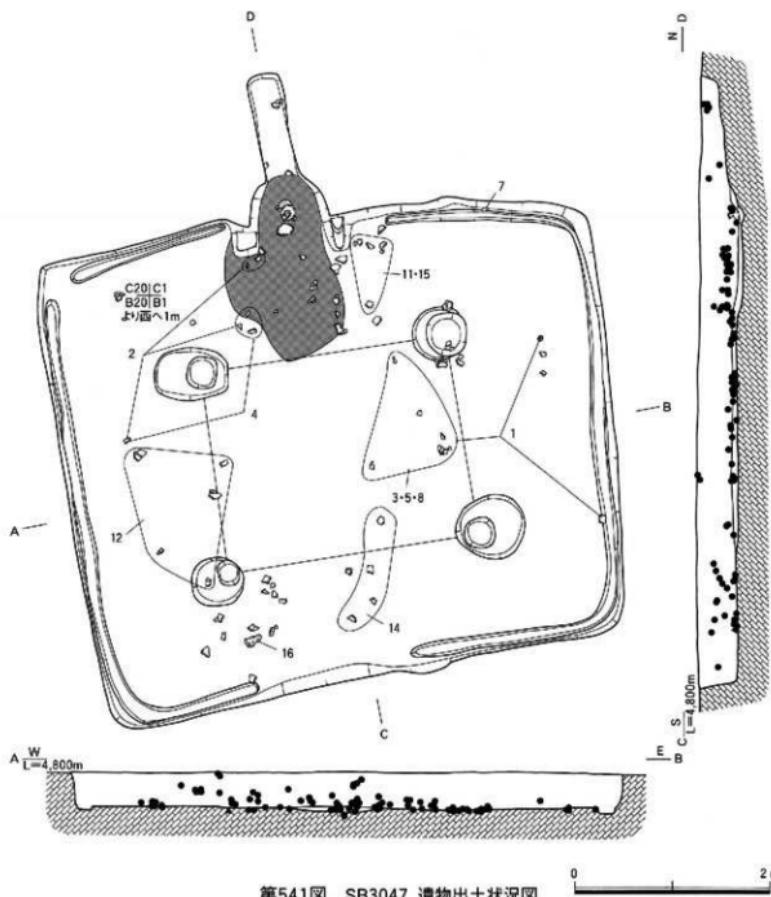
周壁溝 東側と南側の2方向から検出された。

竈 北壁のほぼ中央から1基検出されている。袖部、燃焼部および煙道部が検出されており、焚き口付

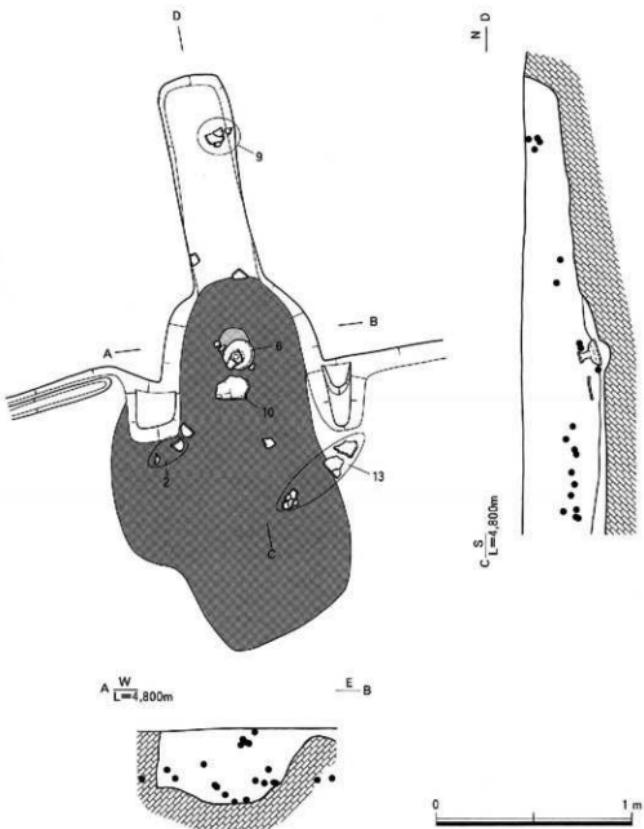


- | | | | |
|----------------------|---------------|----------------------|---------------|
| 1 オリーブ褐色 (2.5Y 4/6) | シルト マンガン含む | 19 オリーブ褐色 (2.5Y 4/3) | シルト |
| 2 オリーブ褐色 (2.5Y 4/6) | シルト | 20 オリーブ褐色 (2.5Y 4/4) | 砂質土 |
| 3 オリーブ褐色 (2.5Y 4/6) | シルト 鉄分含む | 21 オリーブ褐色 (2.5Y 4/4) | シルト 煙土含む |
| 4 オリーブ褐色 (2.5Y 4/6) | シルト マンガン・鉄分含む | 22 オリーブ褐色 (2.5Y 4/4) | シルト |
| 5 黄褐色 (2.5Y 5/4) | シルト | 23 オリーブ褐色 (2.5Y 4/6) | シルト |
| 10 オリーブ褐色 (2.5Y 4/4) | シルト | 24 黄褐色 (2.5Y 5/6) | シルト 煙土含む |
| 11 オリーブ褐色 (2.5Y 4/3) | シルト | 25 黄褐色 (2.5Y 5/4) | シルト |
| 12 梅褐色 (10YR 4/6) | 砂質土 | 26 梅褐色 (7.5YR 4/4) | シルト (煙土) |
| 13 オリーブ褐色 (2.5Y 4/6) | シルト | 27 オリーブ褐色 (2.5Y 4/4) | 砂質土 |
| 14 オリーブ褐色 (2.5Y 4/6) | 砂質土 | 28 黄褐色 (2.5Y 6/2) | 粘土 (灰) |
| 15 黄褐色 (2.5Y 5/4) | シルト | 29 梅褐色 (7.5YR 4/4) | シルト |
| 16 オリーブ褐色 (2.5Y 4/4) | シルト マンガン含む | 30 オリーブ褐色 (2.5Y 4/4) | シルト 塵土化物・煙土含む |
| 17 オリーブ褐色 (2.5Y 4/4) | シルト | 31 オリーブ褐色 (2.5Y 4/4) | シルト (煙土) |
| 18 黄褐色 (2.5Y 5/4) | 砂質土 | 32 梅褐色 (7.5YR 4/4) | シルト (煙土) |

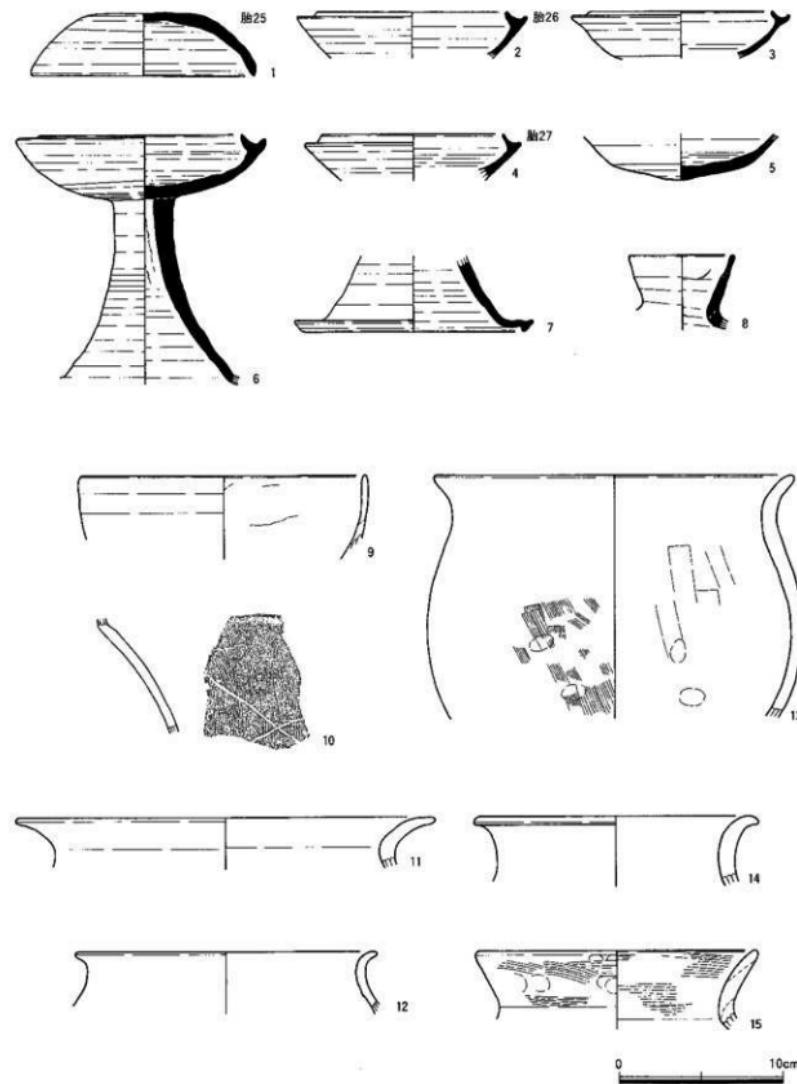
第540図 SB3047-EH1 平断面図



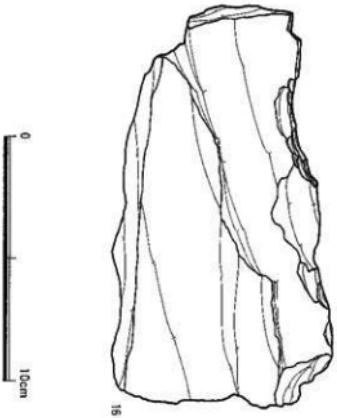
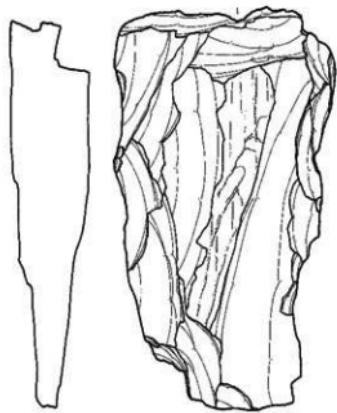
第541図 SB3047 遺物出土状況図



第542図 SB3047-EH1 遺物出土状況図

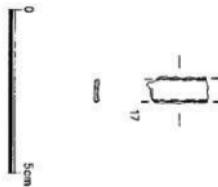


第543図 SB3047 出土遺物（1）

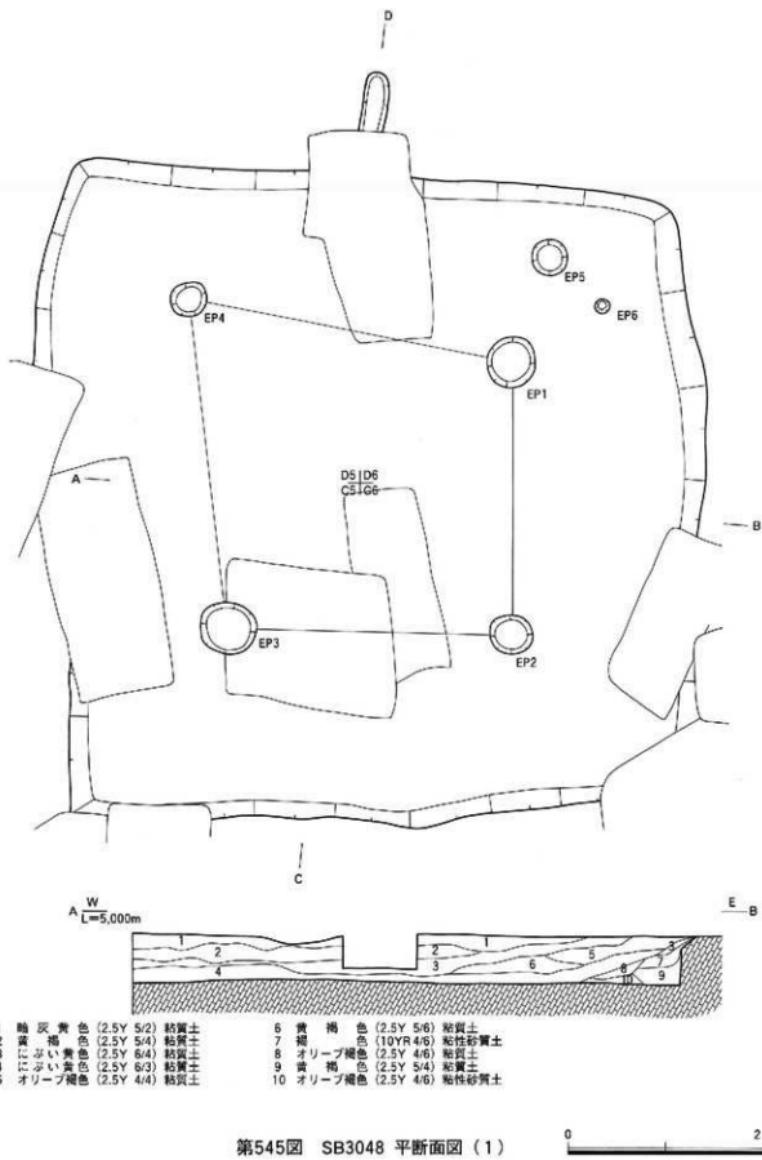


0
10cm

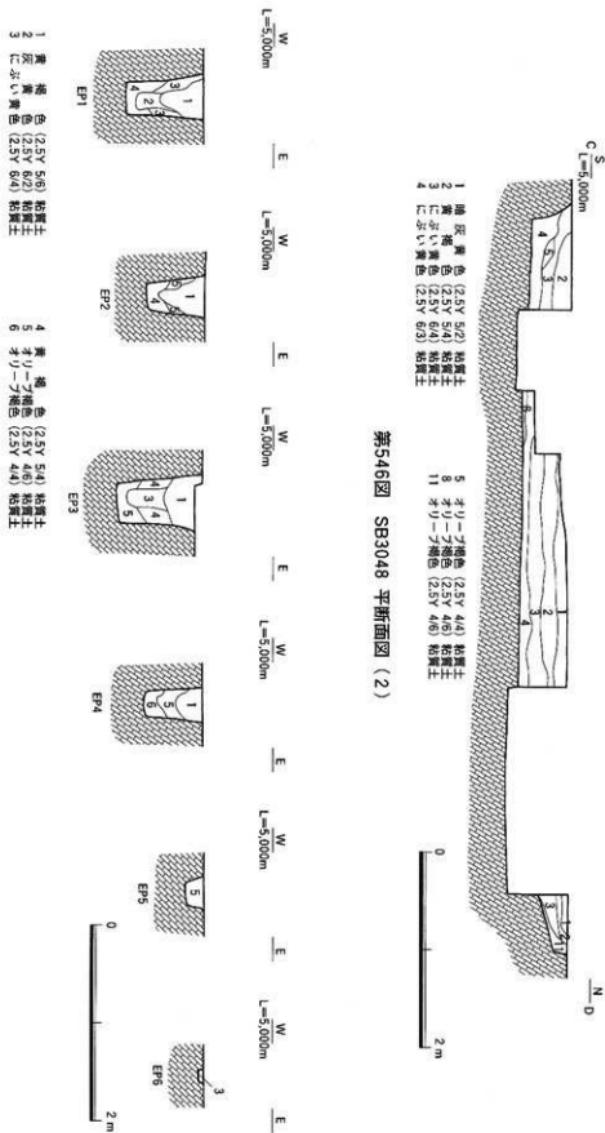
第544圖 SB3047 出土遺物 (2)



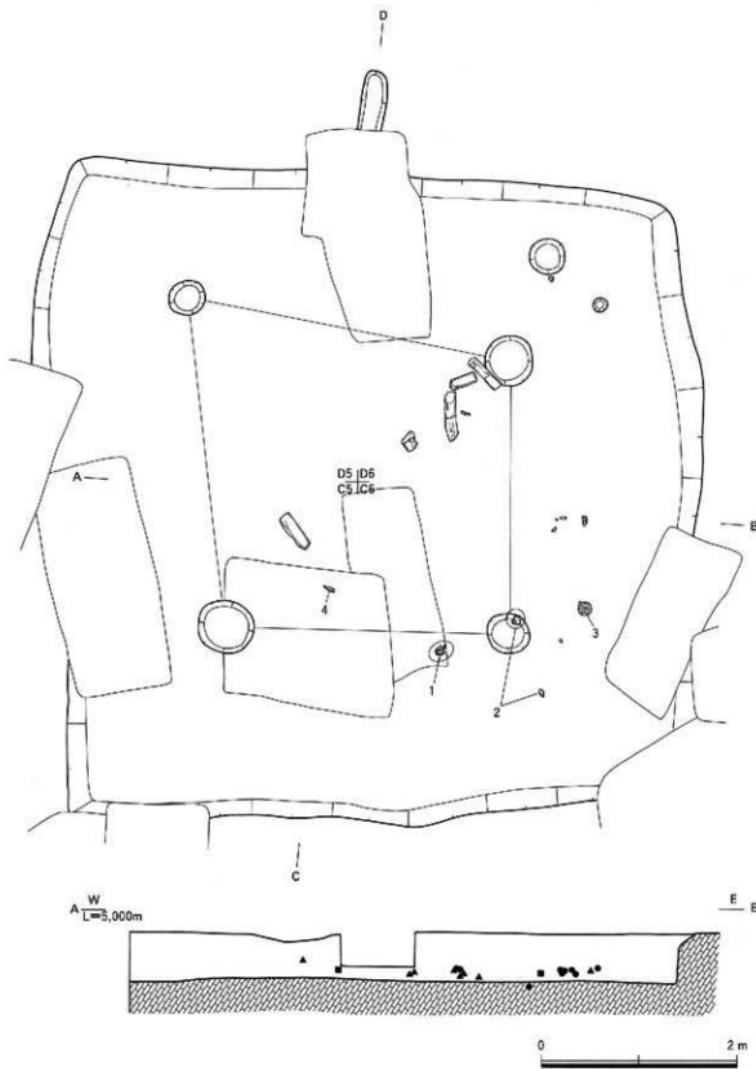
0
5cm



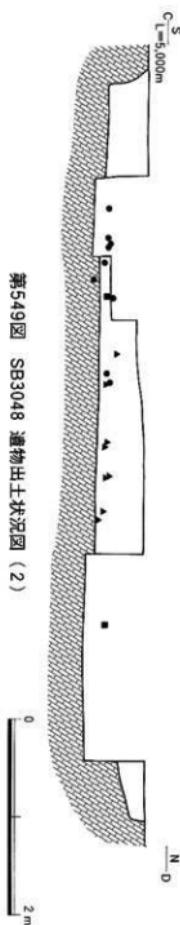
第545図 SB3048 平断面図 (1)



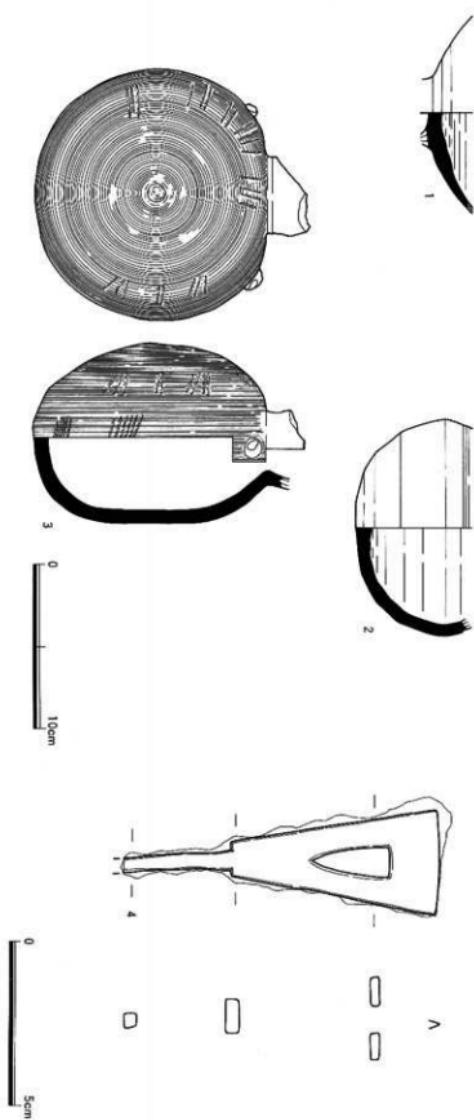
第547図 SB3048・EP 断面図

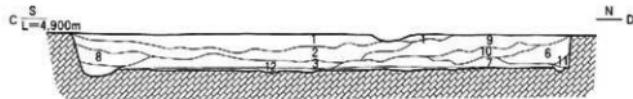
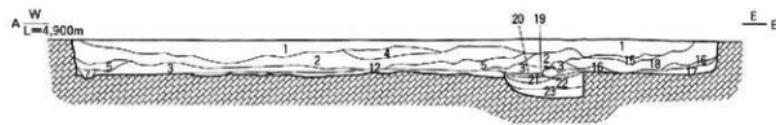
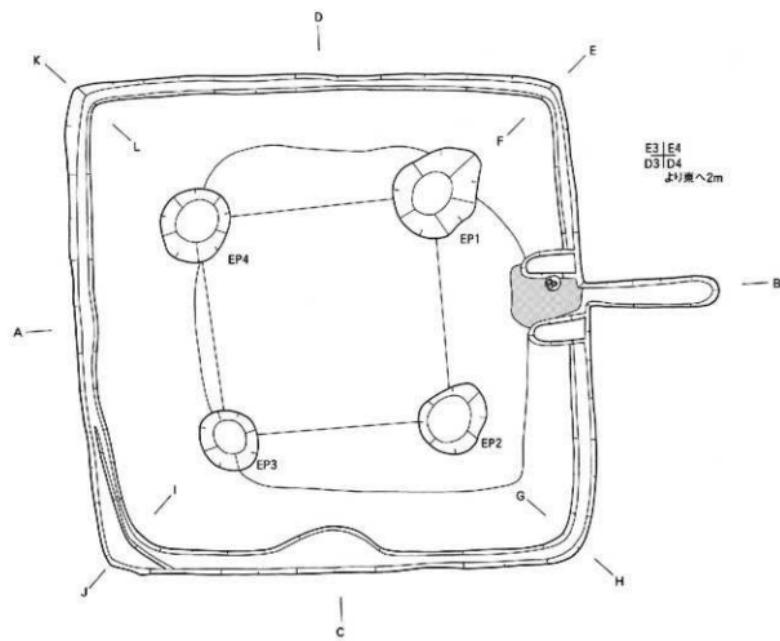


第549図 SB3048 遺物出土状況図(2)



第550図 SB3048 出土遺物

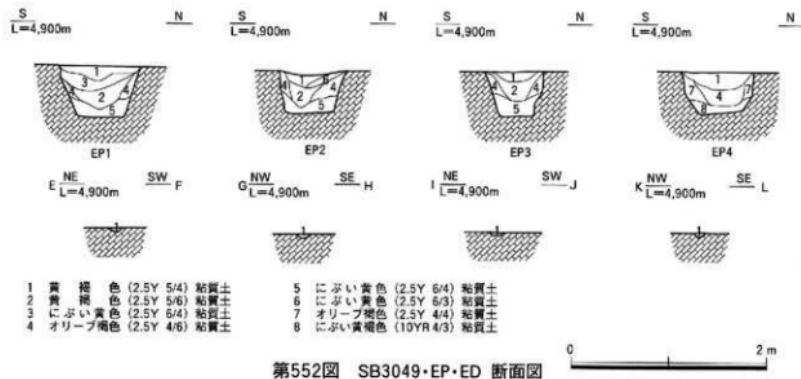




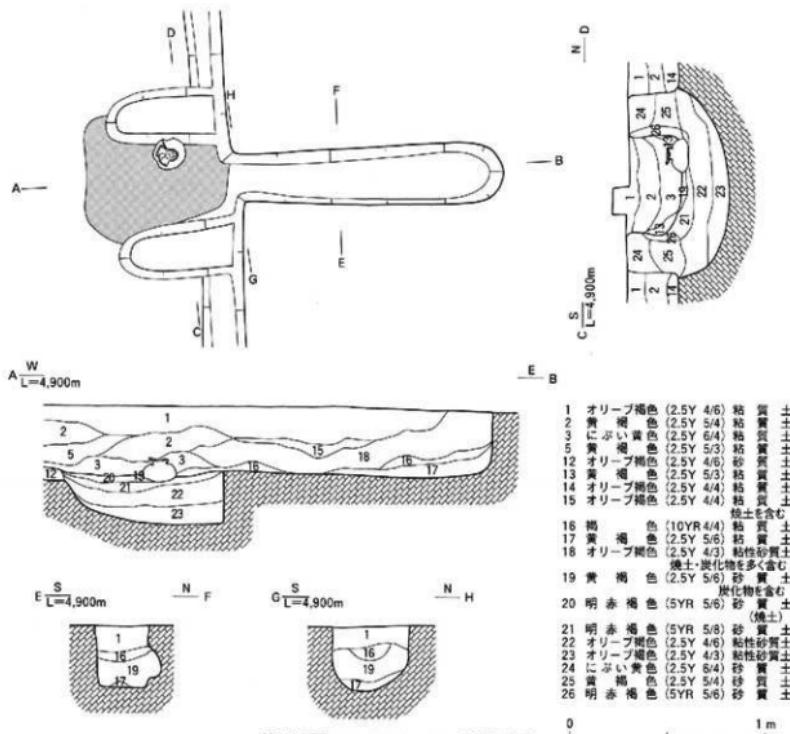
- | | | | |
|----|-------------------|------------|-----|
| 1 | オリーブ褐色 (2.5Y 4/6) | 粘質土 | |
| 2 | 黄褐色 | (2.5Y 5/4) | 粘質土 |
| 3 | にぶい黄色 | (2.5Y 6/4) | 粘質土 |
| 4 | オリーブ褐色 | (2.5Y 4/4) | 粘質土 |
| 5 | 黄褐色 | (2.5Y 5/3) | 粘質土 |
| 6 | 黄褐色 | (2.5Y 5/6) | 粘質土 |
| 7 | 褐色 | (10YR 4/4) | 粘質土 |
| 8 | オリーブ褐色 | (2.5Y 4/3) | 粘質土 |
| 9 | にぶい黄色 | (2.5Y 6/4) | 粘質土 |
| 10 | にぶい黄褐色 | (10YR 5/4) | 粘質土 |
| 11 | オリーブ褐色 | (2.5Y 4/6) | 粘質土 |
| 12 | オリーブ褐色 | (2.5Y 4/6) | 砂質土 |

第551図 SB3049 平断面図

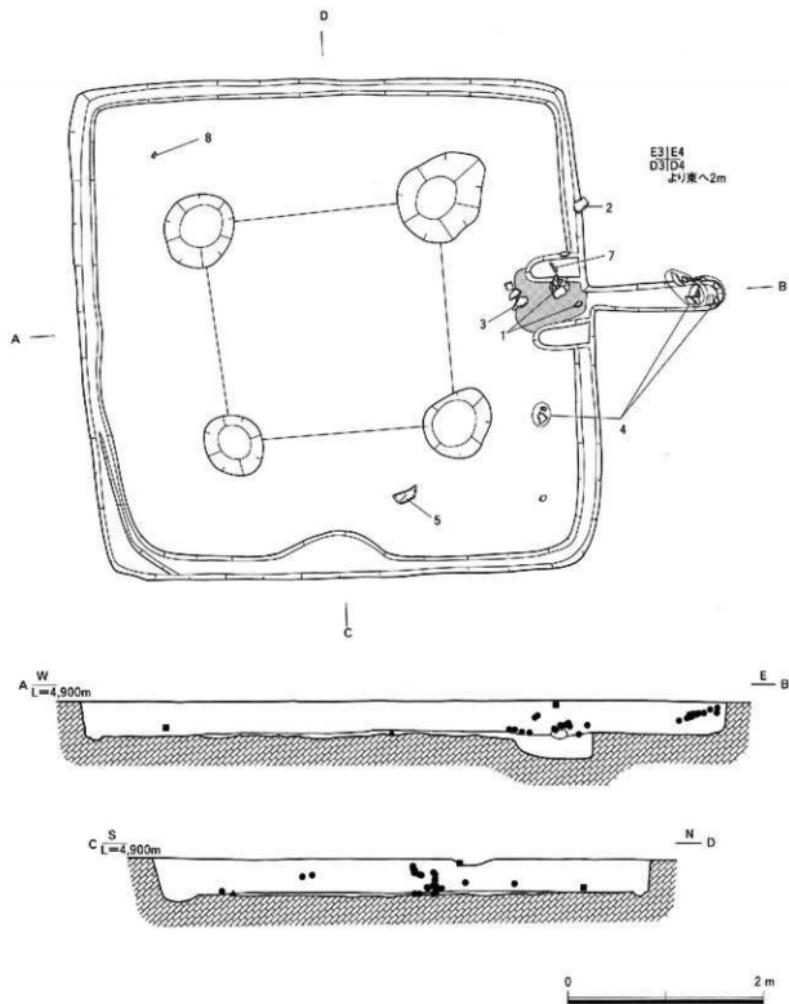




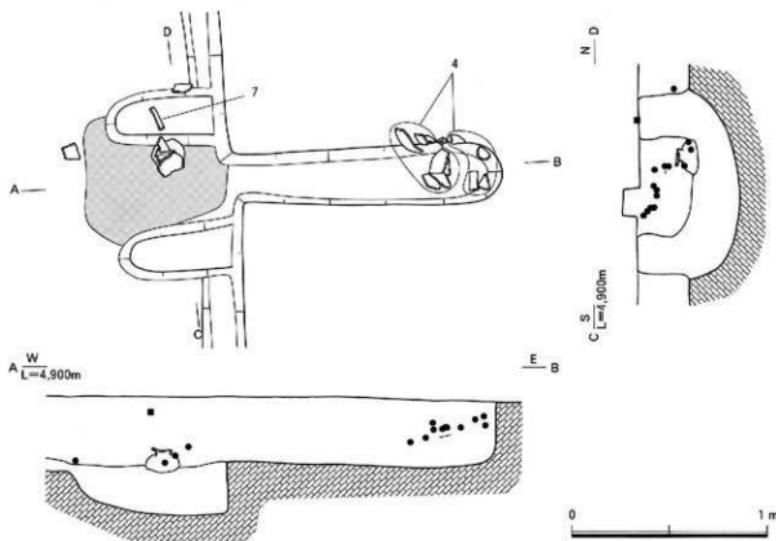
第552図 SB3049·EP·ED 断面図



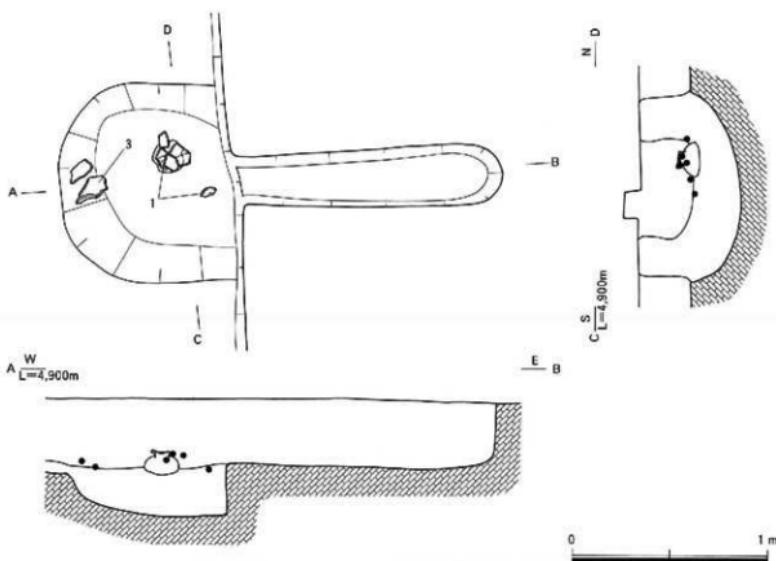
第553図 SB3049·EH1 平断面図



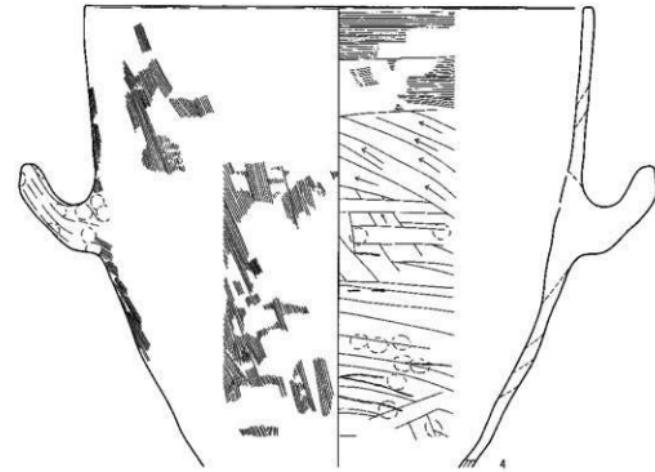
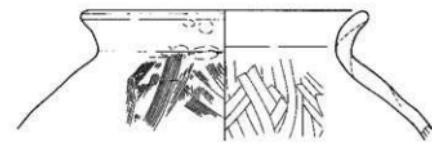
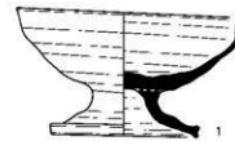
第554図 SB3049 遺物出土状況図



第555図 SB3049-EH1 遺物出土状況図

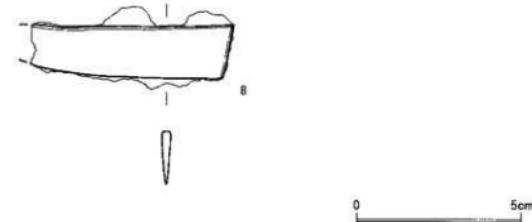
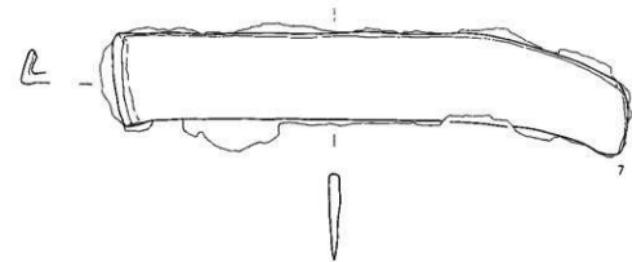
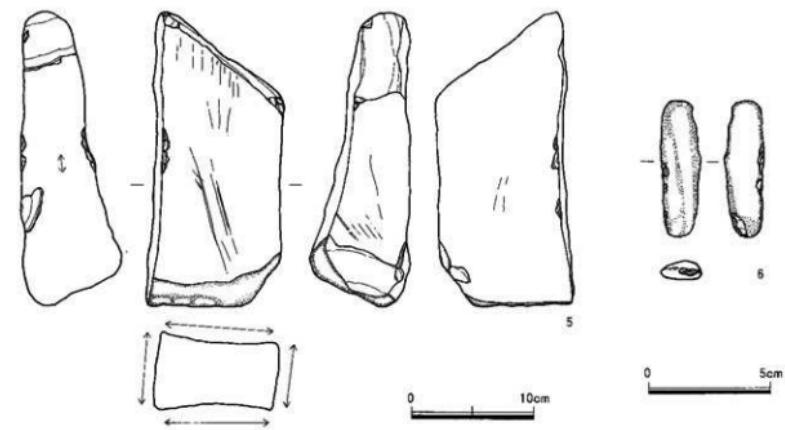


第556図 SB3049-EH1 下部構造遺物出土状況図

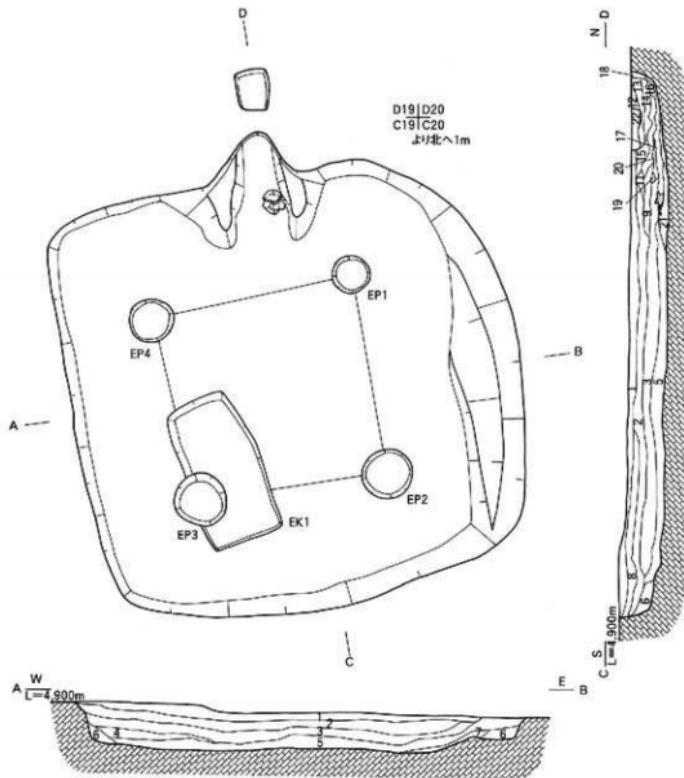


0 10cm

第557図 SB3049 出土遺物 (1)



第558図 SB3049 出土遺物（2）



- | | | | | |
|---|-------------|------------|-----|----------|
| 1 | 黄
褐
色 | (2.5Y 5/4) | シルト | マンガン含む |
| 2 | オリーブ
褐色 | (2.5Y 4/4) | シルト | |
| 3 | 黄
褐
色 | (2.5Y 5/4) | シルト | |
| 4 | 黄
褐
色 | (2.5Y 5/3) | シルト | |
| 5 | オリーブ
褐色 | (2.5Y 4/4) | シルト | 焼土・炭化物含む |
| 6 | オリーブ
褐色 | (2.5Y 4/3) | 粘質土 | |
| 7 | オリーブ
褐色 | (2.5Y 4/4) | 粘質土 | |
| 8 | 黄
褐
色 | (2.5Y 5/4) | シルト | |

$$L = \frac{W}{4,900m}$$

6

$\frac{W}{L=4,900m}$

E

$$L = \frac{w}{4,900m}$$

11

$$= 4,900 \text{m}$$

三



EP 1



EP



EP3

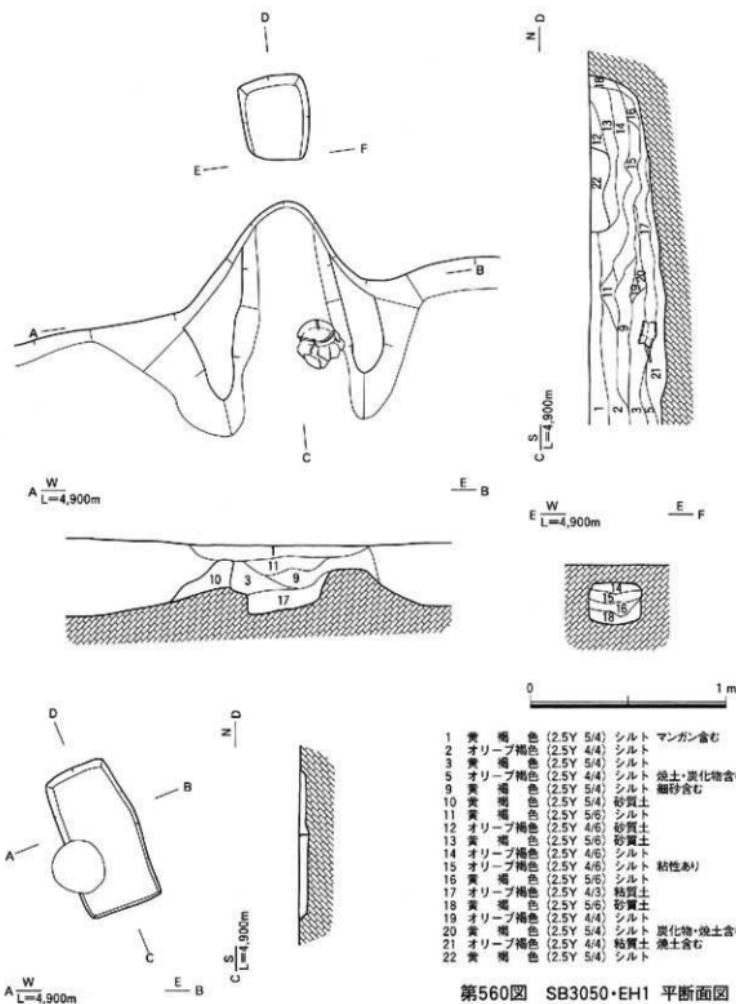


EP4

- 1 オリーブ褐色 (2.5Y 4/4) 砂質土
 2 オリーブ褐色 (2.5Y 4/6) 砂質土
 3 にふい黄色 (2.5Y 6/4) 砂質土

20

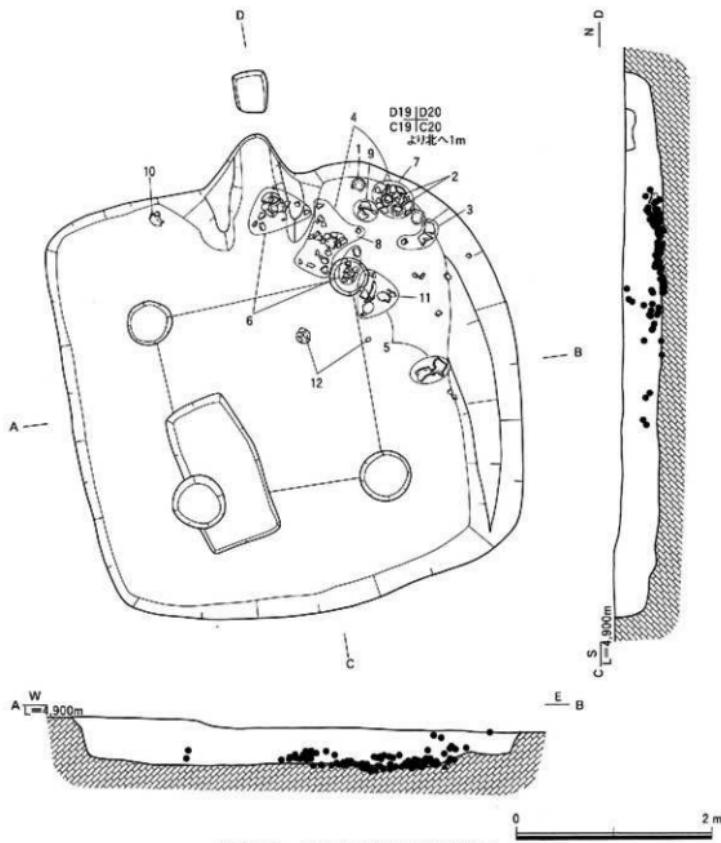
第559図 SB3050 平断面図



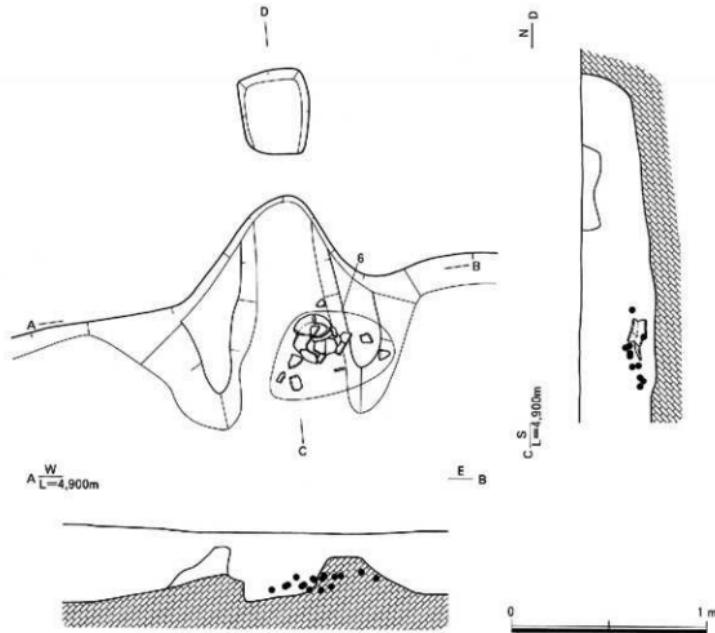
第560図 SB3050-EH1 平断面図



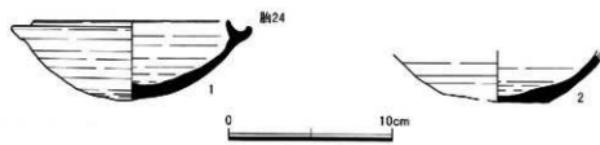
第561図 SB3050-EK1 平断面図



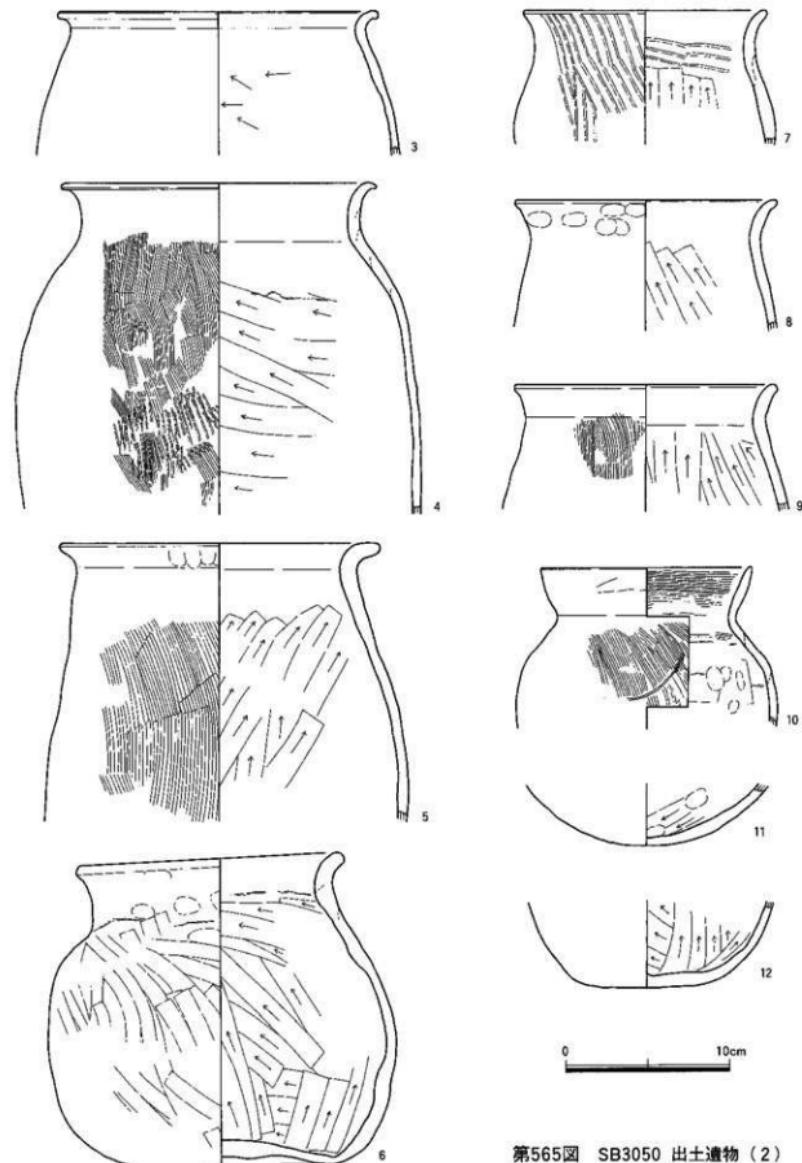
第562図 SB3050 遺物出土状況図



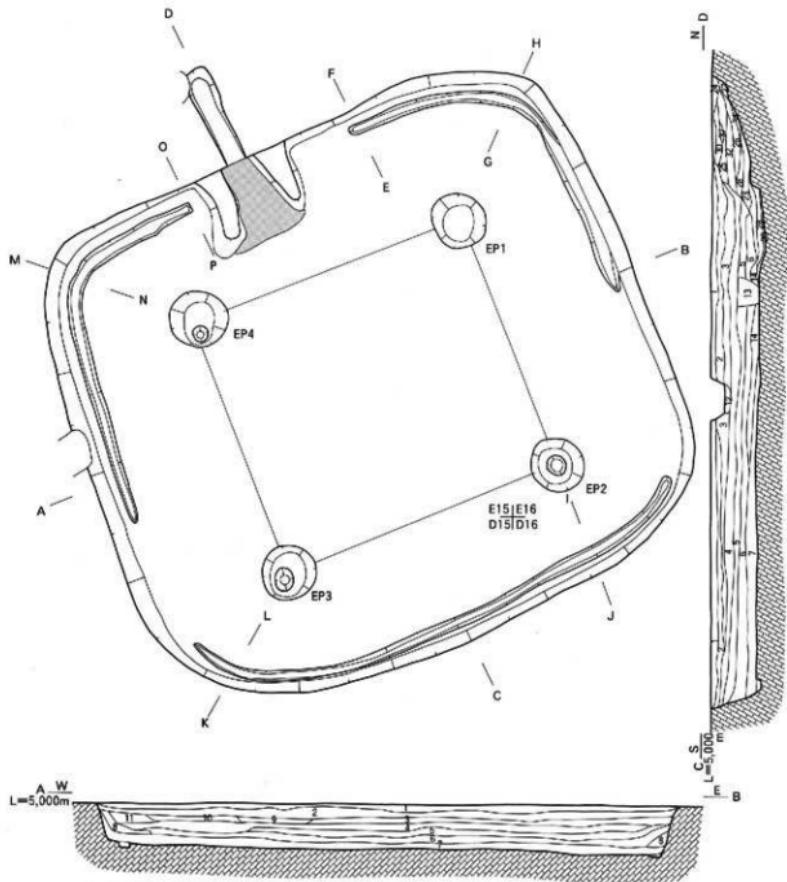
第563図 SB3050・EH1 遺物出土状況図



第564図 SB3050 出土遺物 (1)

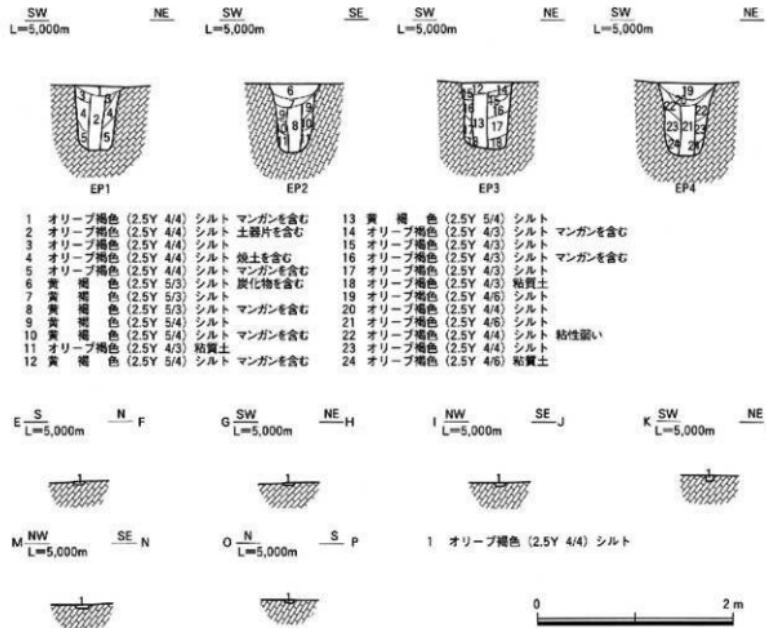


第565図 SB3050 出土遺物（2）



1	黄 黄 リーブ オリーブ 黄 オリーブ オリーブ 黄 オリーブ オリーブ 黄 オリーブ オリーブ 黄 オリーブ 14	褐色 褐色 褐色 褐色 褐色 褐色 褐色 褐色 褐色 褐色 褐色 褐色 褐色 褐色	(2.5Y 5/4) (2.5Y 5/3) (2.5Y 5/4) (2.5Y 5/4) (2.5Y 5/3) (2.5Y 4/4) (2.5Y 4/4) (2.5Y 4/4) (2.5Y 4/3) (2.5Y 5/3) (2.5Y 5/3)	シルト シルト シルト シルト シルト シルト シルト シルト シルト シルト シルト シルト シルト シルト
2				マンガンを含む
3				
4				
5				
6				
7				
8				
9				
10				
11				
12				
13				

第566図 SB3051 平断面図



第567図 SB3051・EP・ED 断面図

近から炭化物の抜がりがみとめられた。下部構造は検出されていない。

遺物出土状況 窓内および南壁沿いを中心に検出された。

出土遺物 1は須恵器の杯身である。2は土器器の蓋である。3は砂質片岩の敲石である。

時期 出土した遺物から古墳時代後期と考えられる。

59号竪穴住居跡 (SB3059) (第610・611図)

検出場所 2003年度調査3-3区 Loc.G1・γII D11グリッド

形態・規模 南側および東側が調査区外に延びているため、平面形状や規模は不明である。残存する深度は0.20mを測る。

土層 2層に分層される。

柱穴 検出されていない。

電 検出されていない。

遺物出土状況 固化できるものはない。

出土遺物 1は須恵器の杯身である。

時期 出土した遺物から古墳時代後期と考えられる。

60号竪穴住居跡（SB3060）（第612・613図）

検出場所 2003年度調査3-3区 Loc.G1・γII D11グリッド

形態・規模 北側および東側が調査区外に延びているため、平面形状や規模は不明である。残存する深度は0.42mを測る。

土層 5層に分層される。

柱穴 検出されていない。

竈 検出されていない。

遺物出土状況 固化できるものはない。

出土遺物 1は須恵器の壺である。

時期 出土した遺物から古墳時代後期以後と考えられる。

61・62号竪穴住居跡（SB3061・3062）（第614～622図）

検出場所 2003年度調査3-3区 Loc.G1・γII E10・11・F10・11グリッド

形態・規模 62号住居の上に61号住居が構築されているとみられ、62号住居は竈の基底部を残すのみの検出である。61号住居は方形または長方形を呈するとみられ、長軸6.68m、短軸4.10m（残存値）、表面積は27.4m²（残存値）を測る。残存する深度は0.38mである。

土層 7層に分層される。

柱穴 2軒で併せて9基検出されている。

竈 東壁に1基、62号住居の竈が検出されている。支脚に砂岩の自然石を利用している。袖部と燃焼部が検出された。下部構造は検出されていない。

遺物出土状況 62号住居の竈およびその周辺から検出されている。

出土遺物 1～3は須恵器の杯蓋である。4・5は須恵器の杯身である。6・7は土師器の壺である。

8・9は砂質片岩の剥片である。10は砂岩の敲石である。11は銭貨で「寛永通寶」である。第622図1、2は土師器の壺である。3は砂岩の受熱縁で竈の支脚である。

時期 出土遺物から古墳時代後期（6世紀第2四半期・MT15並行期）と考えられる。

63号竪穴住居跡（SB3063）（第623～627図）

検出場所 2003年度調査3-3区 Loc.G1・γII D9・10・11・E9・10・11グリッド

形態・規模 周囲の壁を他の住居に切られているが平面形態は長方形を呈し、長軸6.45m、短軸5.45m、表面積は約35.2m²を測る。残存する深度は0.32mである。

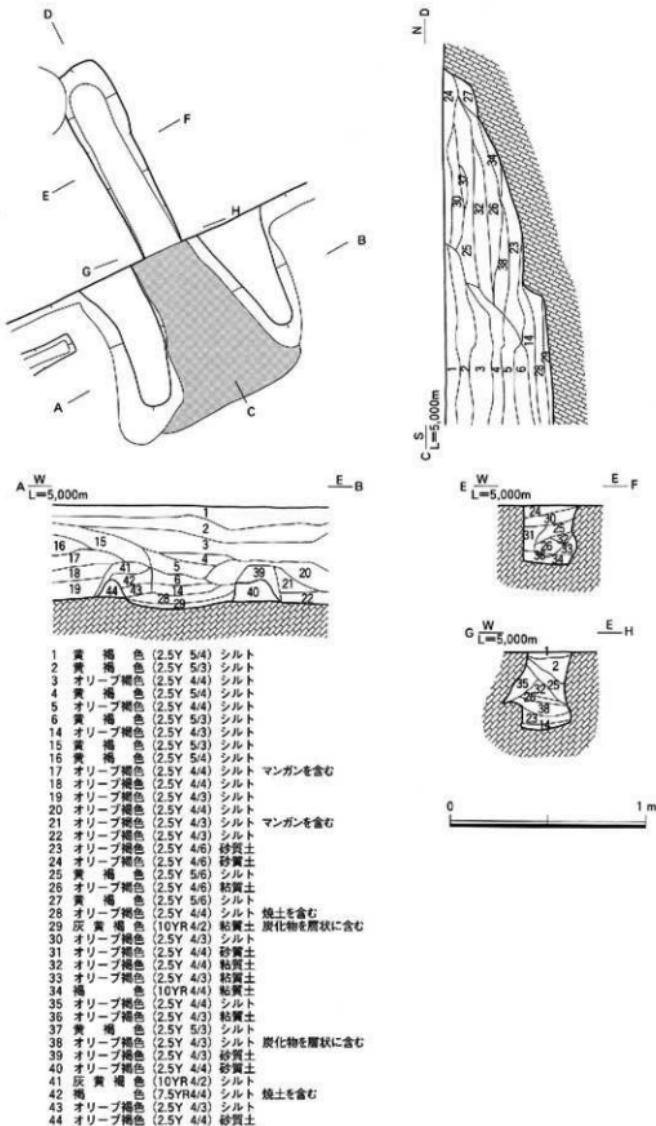
土層 10層に分層される。

柱穴 検出されていない。

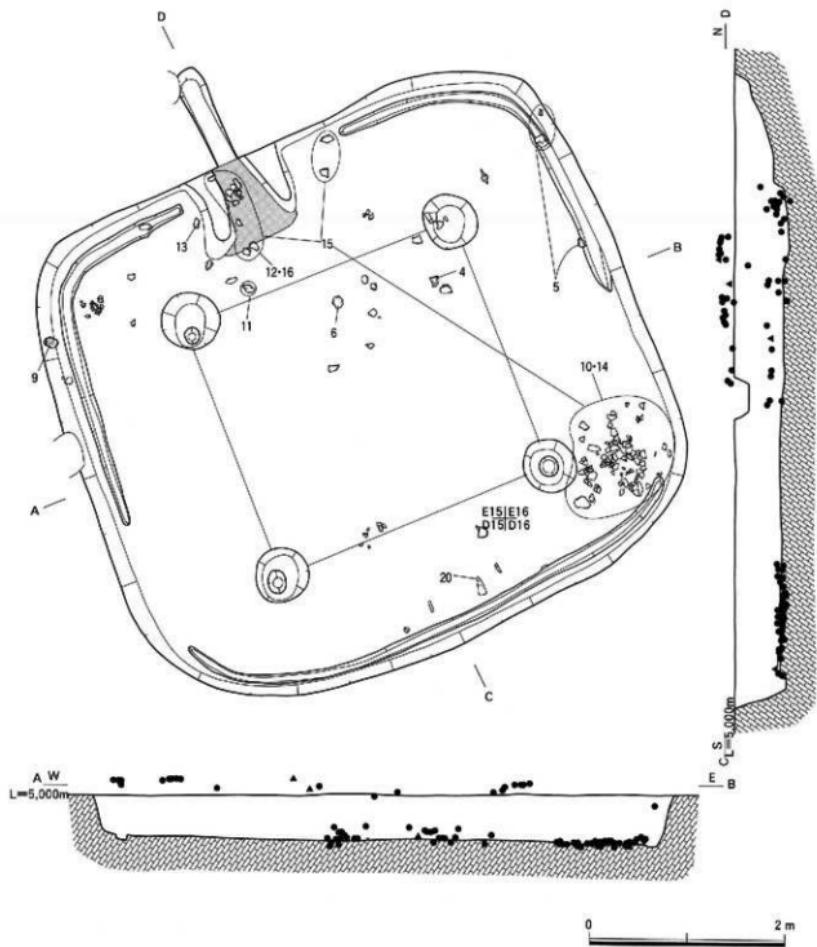
竈 土師器の壺が据えられた状態で残されている他は上部の構造は残存していない。下部構造は土坑が撤削されているが固化されていない。西側に炭化物の括りがみとめられた。

遺物出土状況 竈およびその周辺を中心で検出されている。

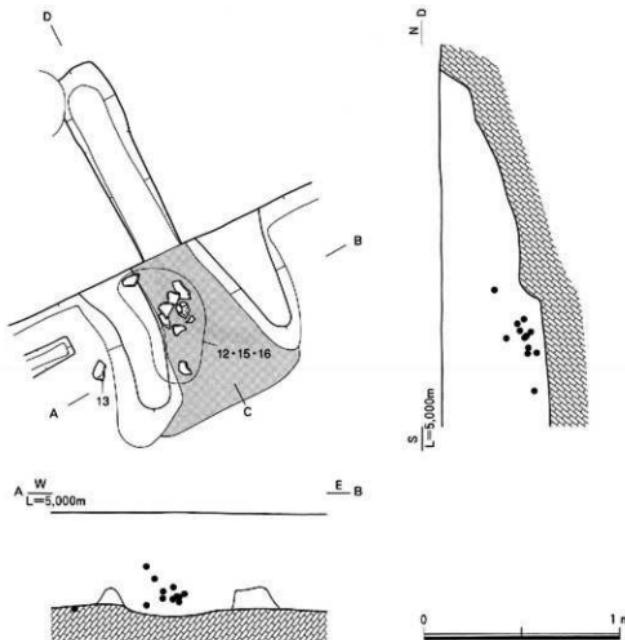
出土遺物 1～3は須恵器の杯蓋である。4は須恵器の杯身である。5・6は土師器の壺である。7・



第568図 SB3051-EH1 平断面図



第569図 SB3051 遺物出土状況図



第570図 SB3051-EH1 遺物出土状況図

8は砂質片岩の剥片で、竈の部材と考えられる。

時期 出土した遺物から古墳時代後期（6世紀第2四半期・MT15並行期）と考えられる。

64号竪穴住居跡（SB3064）（第628～633図）

検出場所 2003年度調査3-3区 Loc.G1-γII C9・D9・10・11・E10グリッド

形態・規模 平面形態は方形または長方形を呈するとみられるが、南側は調査区外に延びている。長軸5.43m、短軸4.60m（残存値）、表面積は25.0m²（残存値）を測る。残存する深度は0.21mである。

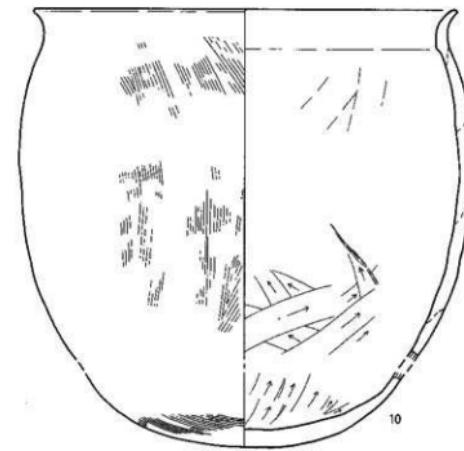
土層 17層に分層される。

柱穴 10基検出されており、そのうちEP1～EP4が主柱穴とみられる。

竈 北壁のほぼ中央に1基検出された。袖部、燃焼部および煙道部が検出されている。下部構造は検出されていない。

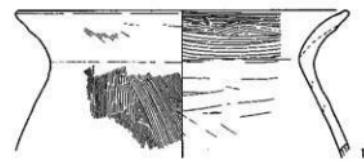
遺物出土状況 窟内を中心に検出された。

出土遺物 1は須恵器の杯蓋である。2・3は須恵器の杯身である。4は須恵器の高杯である。5～7は土師器の壺である。8・9は埋土上層より出土した土師器の杯である。



0 10cm

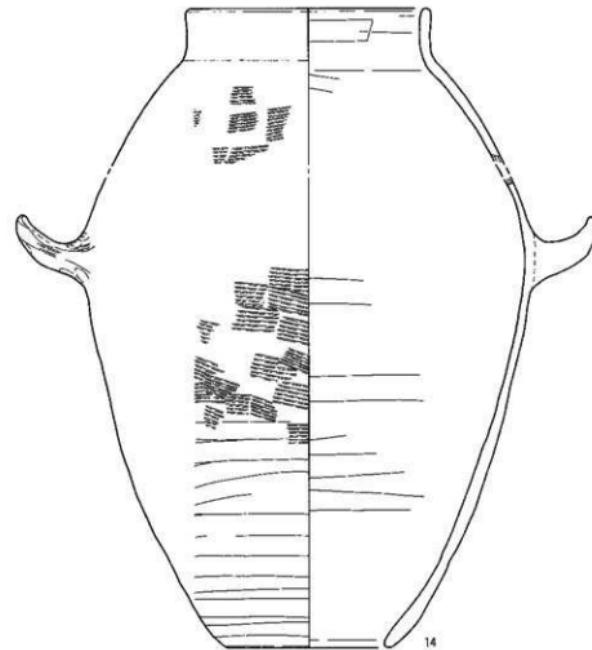
第571図 SB3051 出土遺物 (1)



12



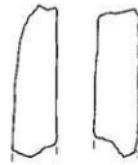
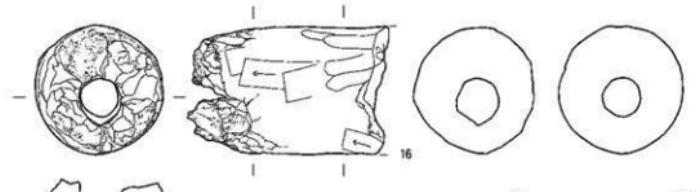
13



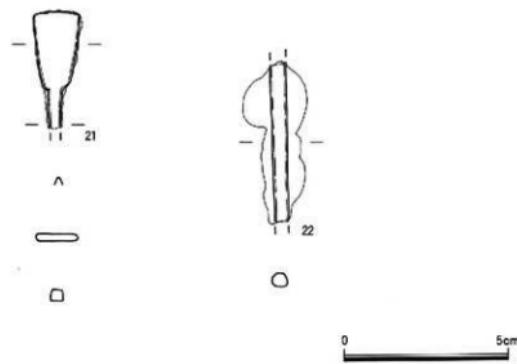
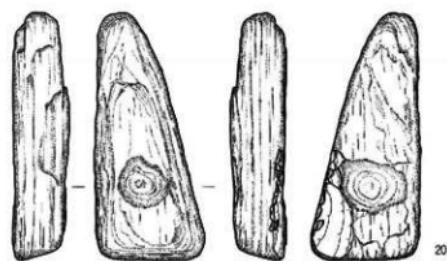
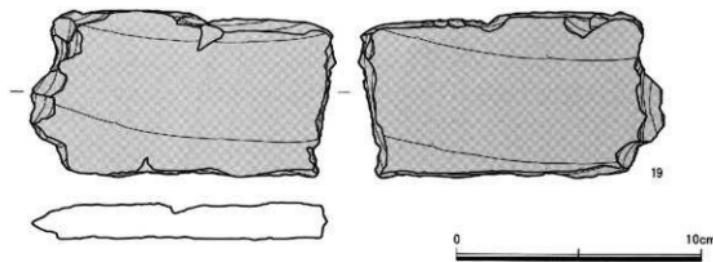
14



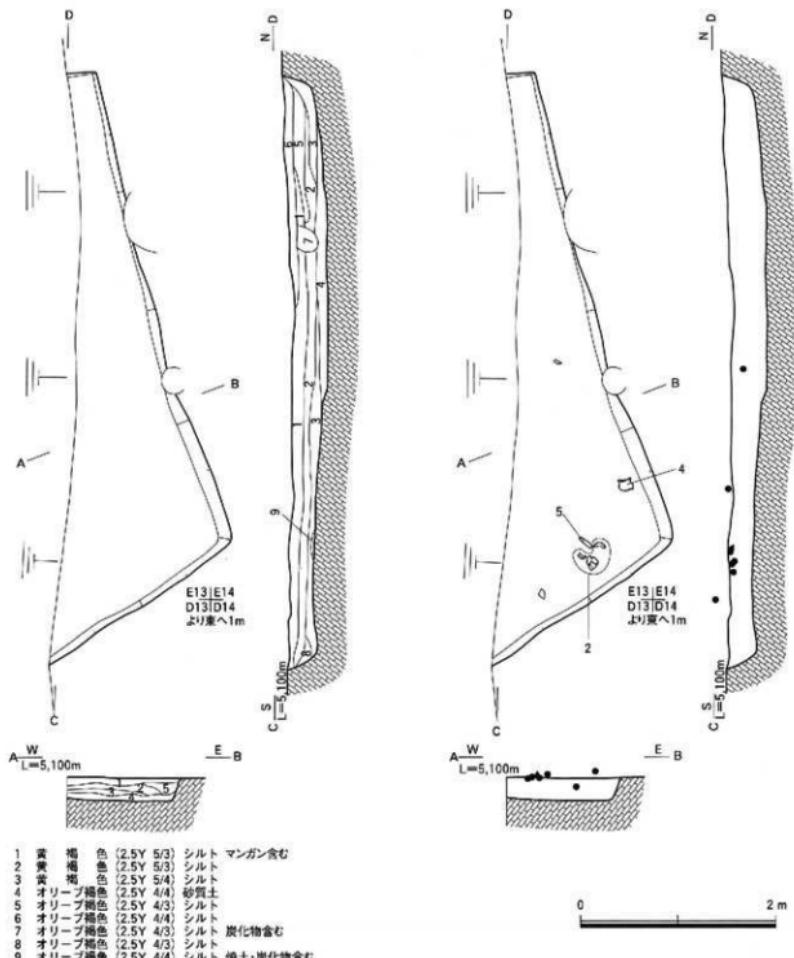
第572図 SB3051 出土遺物（2）



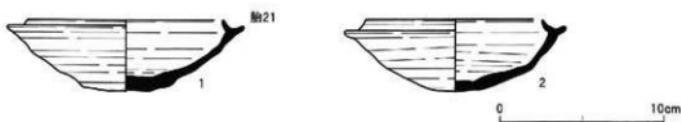
第573図 SB3051 出土遺物 (3)



第574図 SB3051 出土遺物 (4)

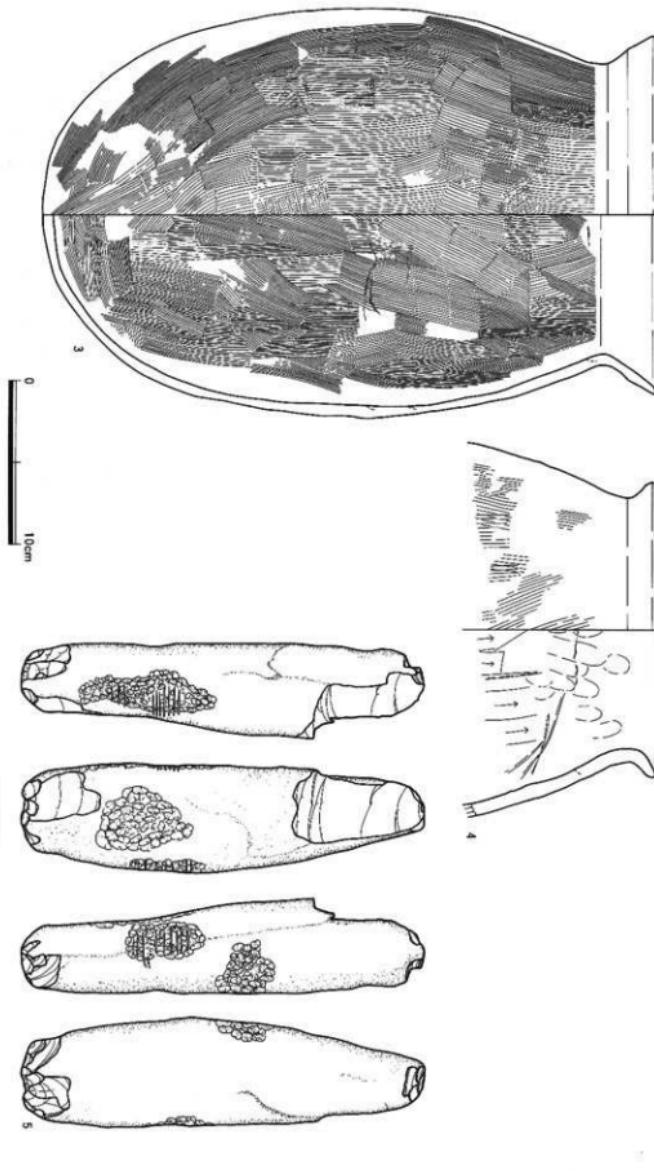


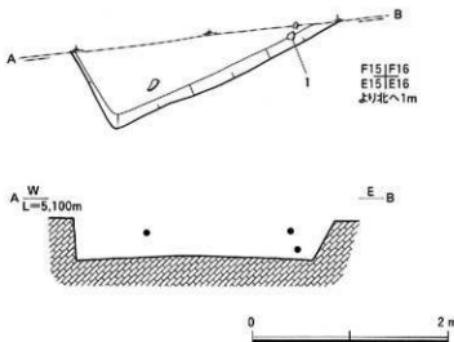
第575図 SB3052 平断面・遺物出土状況図



第576図 SB3052 出土遺物 (1)

第577図 SB3052 出土遺物 (2)





第578図 SB3053 平断面・遺物出土状況図



第579図 SB3053 出土遺物

時期 床面から出土した遺物から古墳時代後期（7世紀第2四半期・TK217並行期）と考えられる。

65号竪穴住居跡（SB3065）（第634～637図）

検出場所 2003年度調査3-3区 Loc.G1・γII D8・9・10・E8・9・10グリッド

形態・規模 平面形状は長方形を呈するとみられるが、北側は調査区外に延びている。長軸7.45m、短軸6.55m（残存値）、表面積は48.8m²（残存値）を測る。残存する深度は0.21mである。

土層 6層に分層される。

柱穴 6基検出されており、そのうちEP1～EP4が主柱穴とみられる。

周壁溝 北側に1ヶ所確検出されている。

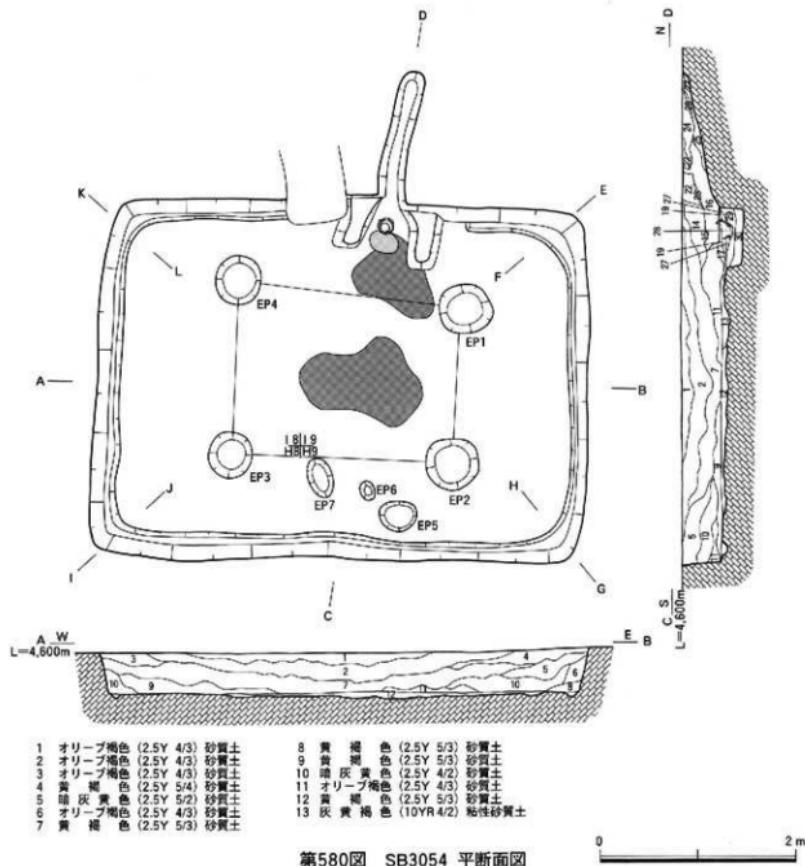
竪 検出されていない。

遺物出土状況 南壁沿いにわずかに検出された。

出土遺物 1・2は須恵器の壺である。3～5は須恵器の杯蓋である。6～8は須恵器の杯身である。

9は須恵器の高杯である。10～12は上師器の壺である。13は上師器の椀である。14は上師器の杯である。

時期 出土した遺物から古墳時代後期（7世紀第2四半期・TK217並行期）と考えられる。



第580図 SB3054 平断面図

66・67号竪穴住居跡（SB3066・3067）（第638～640図）

検出場所 2003年度調査3-3区 Loc.G1・γII D8・9・E8グリッド

形態・規模 平面形態は方形または長方形を呈するとみられるが、66号および69号住居に切られているため規模は不明である。また両者の切り合いについても図上からは判断できない。残存する深度は66号住居が0.21m、67号住居が0.12mを測る。

土層 66号住居は3層に分層される。

柱穴 66号住居から3基検出された。

竈 検出されていない。

遺物出土状況 66号住居の床面の南東部分からまとまって検出されている。

出土遺物 1～4は須恵器の杯蓋である。5・6は須恵器の杯身である。7は須恵器の壺である。8は土師器の壺である。

時期 出土した遺物から古墳時代後期（6世紀第2四半期・MT15並行期）と考えられる。

68・69号竪穴住居跡（SB3068・3069）（第641～645図）

検出場所 2003年度調査3-3区 Loc.G1・γII D8・9・E8グリッド

形態・規模 どちらの住居も西側が調査区外に延びているため形状や規模は不明である。また両者の切り合い関係についても図上からは判断できない。69号住居の残存する深度は0.20mを測る。

土層 69号住居は6層に分層される。

柱穴 両住居共に検出されていない。

竈 69号住居において北壁に1基検出された。上部構造の大半は削られていたが、袖部、燃焼部の形状は確認できる。また下部構造は検出されていない。

遺物出土状況 竈内およびその東側からまとまって検出されている。

出土遺物 1・2は須恵器の杯蓋である。3は須恵器の杯である。4・5は土師器の壺である。

時期 出土した遺物から古墳時代後期（7世紀第1四半期・TK209並行期）と考えられる。

70号竪穴住居跡（SB3070）（第646～650図）

検出場所 2003年度調査3-3区 Loc.G1・γII C8・9グリッド

形態・規模 南側が調査区外に延びているため形状や規模は不明である。残存する深度は0.18mを測る。

土層 9層に分層される。

柱穴 検出されていない。

竈 北壁に1基検出されている。袖部および燃焼部が検出されており、下部構造については検出されていない。

遺物出土状況 竈内から検出されている。

出土遺物 1～3は須恵器の高杯である。

時期 出土した遺物から古墳時代後期（7世紀第1四半期・TK209並行期）と考えられる。

徳島県埋蔵文化財センター調査報告書 第72集

敷地遺跡（I）

道路改築事業（徳島環状線国府T区）関連埋蔵文化財発掘調査報告書
《第1分冊 本文編1》

発行日 平成20(2008)年3月25日

編集 財団法人 徳島県埋蔵文化財センター

〒779-0108 徳島県板野郡板野町大伏字平山86番2
TEL (088) 672-4545 FAX (088) 672-4550

発行 徳島県教育委員会
財団法人 徳島県埋蔵文化財センター

印刷 徳島県教育印刷株式会社